

事務事業及び予算の執行実績

(令和3年度分「一部、令和4年度分を含む」)

静岡県立沼津特別支援学校

目 次

1	事務事業に関すること	
(1)	事務事業の概要
(2)	事務執行の根拠法令調
(3)	学校施設の概要
(4)	在籍生徒調
(5)	入学志願者及び入学者数調
(6)	卒業生の動向調
(7)	生徒の状況
2	職員に関すること	
(1)	職員調
(2)	職員の年齢調
(3)	健康管理
3	予算の総括に関すること	
(1)	保管現金有高調
(2)	預金調
(3)	郵券等受払調
(4)	材料品受払調
(5)	委託料等歳出予算執行状況節別集計表（平成29年度分）
(6)	委託料等歳出予算執行状況節別集計表
4	補助金等に関すること	
(1)	委託料に関する調
(2)	補助金支出調
(3)	負担金支出調
5	工事に関すること	
(1)	建築工事調
6	財産に関すること	
(1)	公有財産調
(2)	借地借家等調
(3)	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調
(4)	行政財産貸付・使用許可調
(5)	主要備品調
(6)	生産物受払調

□□□□□□□

事務事業の概要

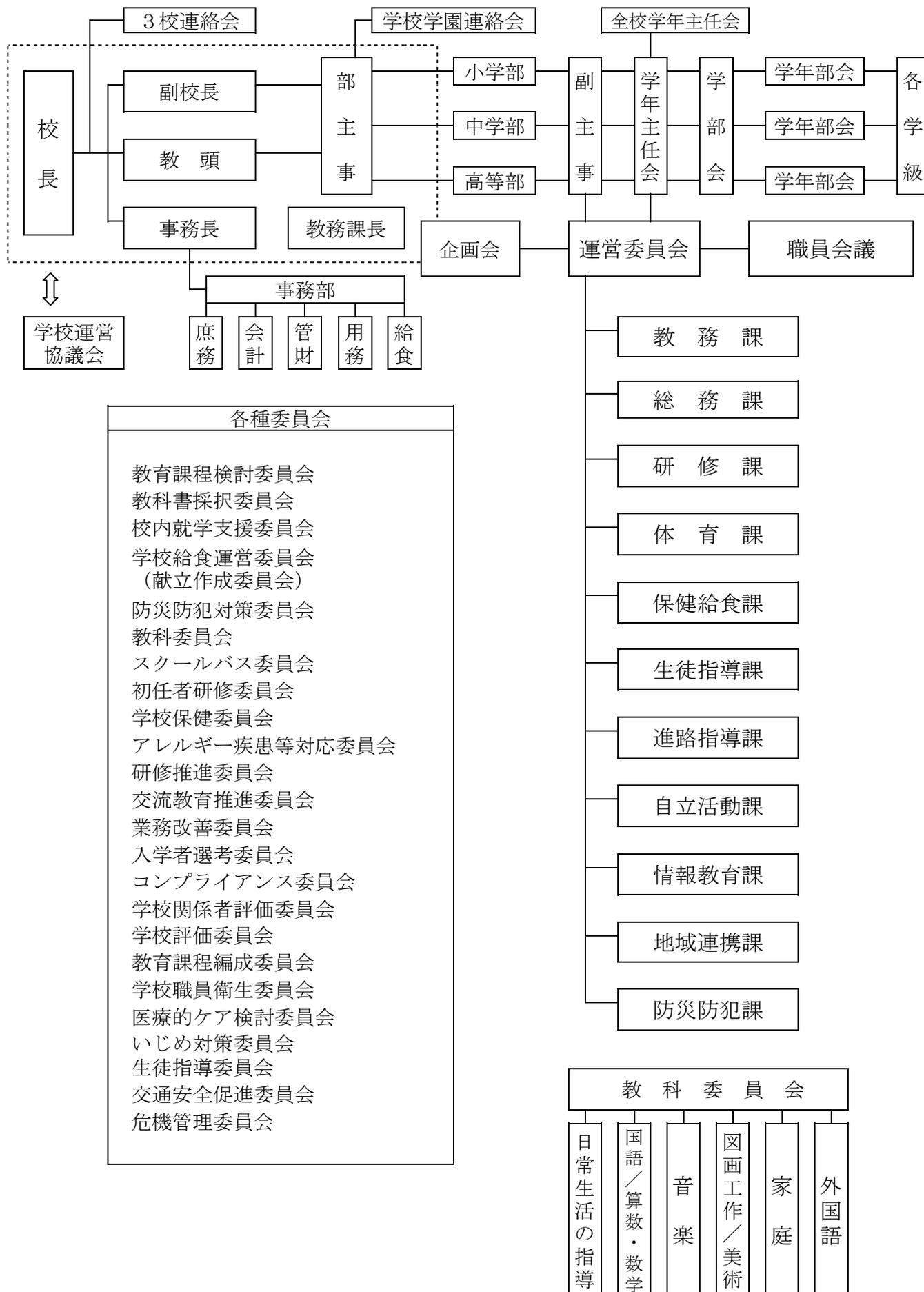
1 概況

(1) 学校の沿革

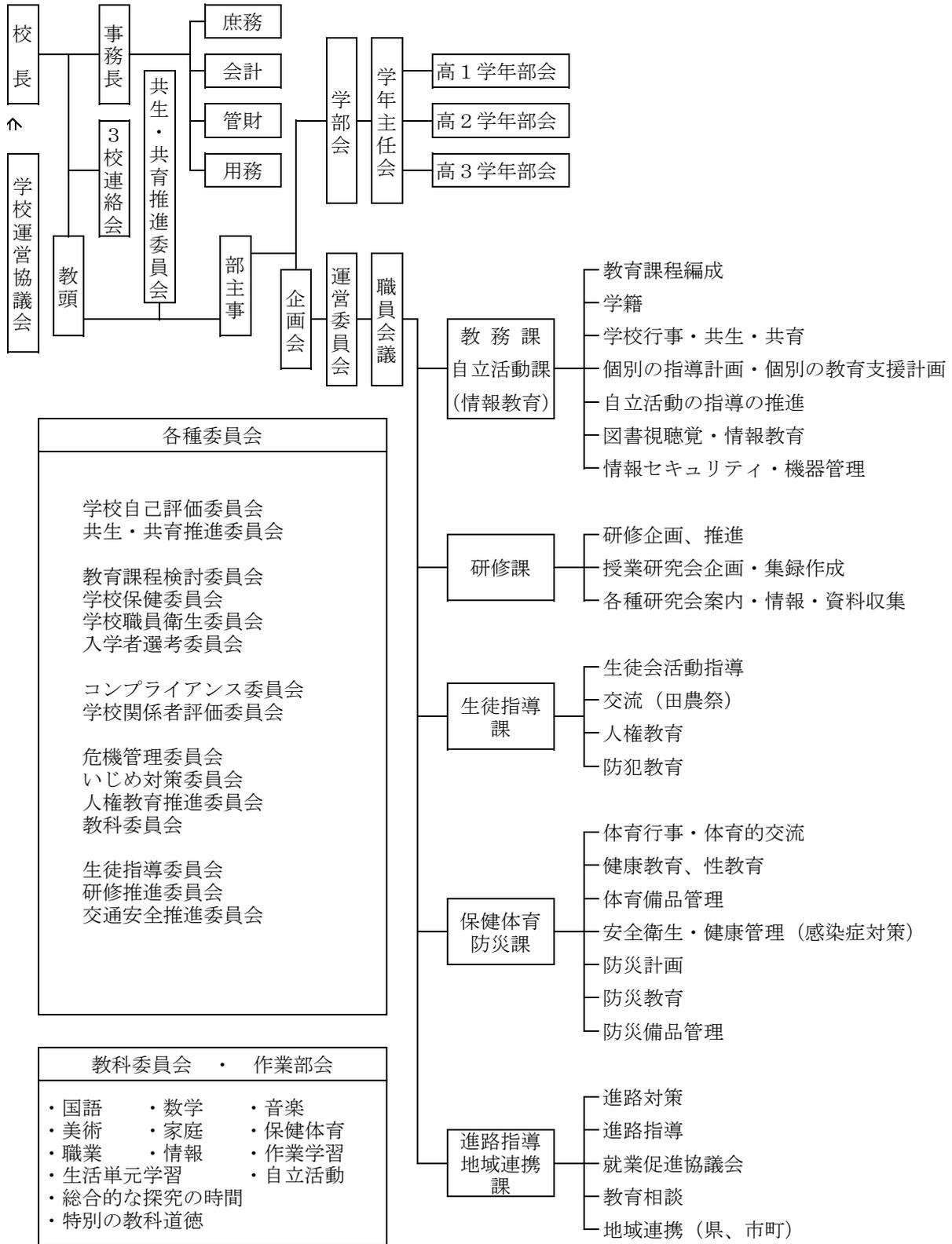
- 昭和53年 3月20日 静岡県東部地区新設養護学校の設置を2月県議会において議決
- 昭和53年 4月 1日 新設養護学校設立準備委員発令
- 昭和53年 8月 4日 第1期建築工事着工
- 昭和53年11月24日 静岡県立沼津養護学校と校名決定
- 昭和54年 3月17日 第1期建築工事竣工（管理棟、食堂）
- 昭和54年 4月10日 開校式、入学式挙行
小学部57人、中学部9人、訪問教育部92人入学
- 昭和55年 3月25日 第2期建築工事竣工（小学部棟）
- 昭和55年 4月 1日 三島市立坂小学校、錦田中学校見晴分校が静岡県に移管され、
静岡県立沼津養護学校見晴分教室となる。
- 昭和55年 4月 1日 富士市立大淵第二小学校、大淵中学校特殊学級が静岡県に移管され、静岡
県立沼津養護学校ふじやま分教室となる。
- 昭和55年 4月 8日 見晴分教室開校式、入学式挙行
小学部22人、中学部16人入学
- 昭和55年 4月 9日 ふじやま分教室開校式、入学式挙行
小学部30人、中学部18人入学
- 昭和56年 3月20日 高等部の設置を2月県議会において議決
第1学年募集定員10人となる。
- 昭和56年 4月 1日 高等部開設
- 昭和57年 3月10日 高等部棟建築工事竣工
- 昭和58年 3月23日 体育館建築用地買収
- 昭和58年11月19日 校旗制定
- 昭和59年 2月29日 体育館建築工事竣工
- 昭和59年 3月10日 高等部第1回卒業式挙行
- 昭和60年 3月15日 高等部棟増築工事竣工
- 昭和60年 3月28日 プール竣工
- 平成 2年 3月31日 ふじやま分教室閉校
- 平成 9年 9月30日 中学部棟耐震工事完成
- 平成10年 4月 1日 高等部募集定員固定制から変動制となる。
- 平成10年 9月30日 小学部棟耐震工事完成
- 平成10年11月30日 給食棟下処理室竣工
- 平成13年 3月31日 見晴分教室休止となる。
- 平成15年 3月 1日 見晴分教室廃止となる。
- 平成15年 3月31日 訪問教育が東部養護学校へ指導変更となる。
- 平成15年 4月 1日 高等部第1学年に重複学級が認可される。
- 平成20年 4月 1日 静岡県立沼津特別支援学校と校名変更
- 平成21年 4月 7日 静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校開校式・入学式挙行
- 平成25年 4月 8日 静岡県立沼津特別支援学校愛鷹分校開校式・入学式挙行
- 平成29年 3月15日 木工陶芸室新築他工事竣工

(2) 組織図

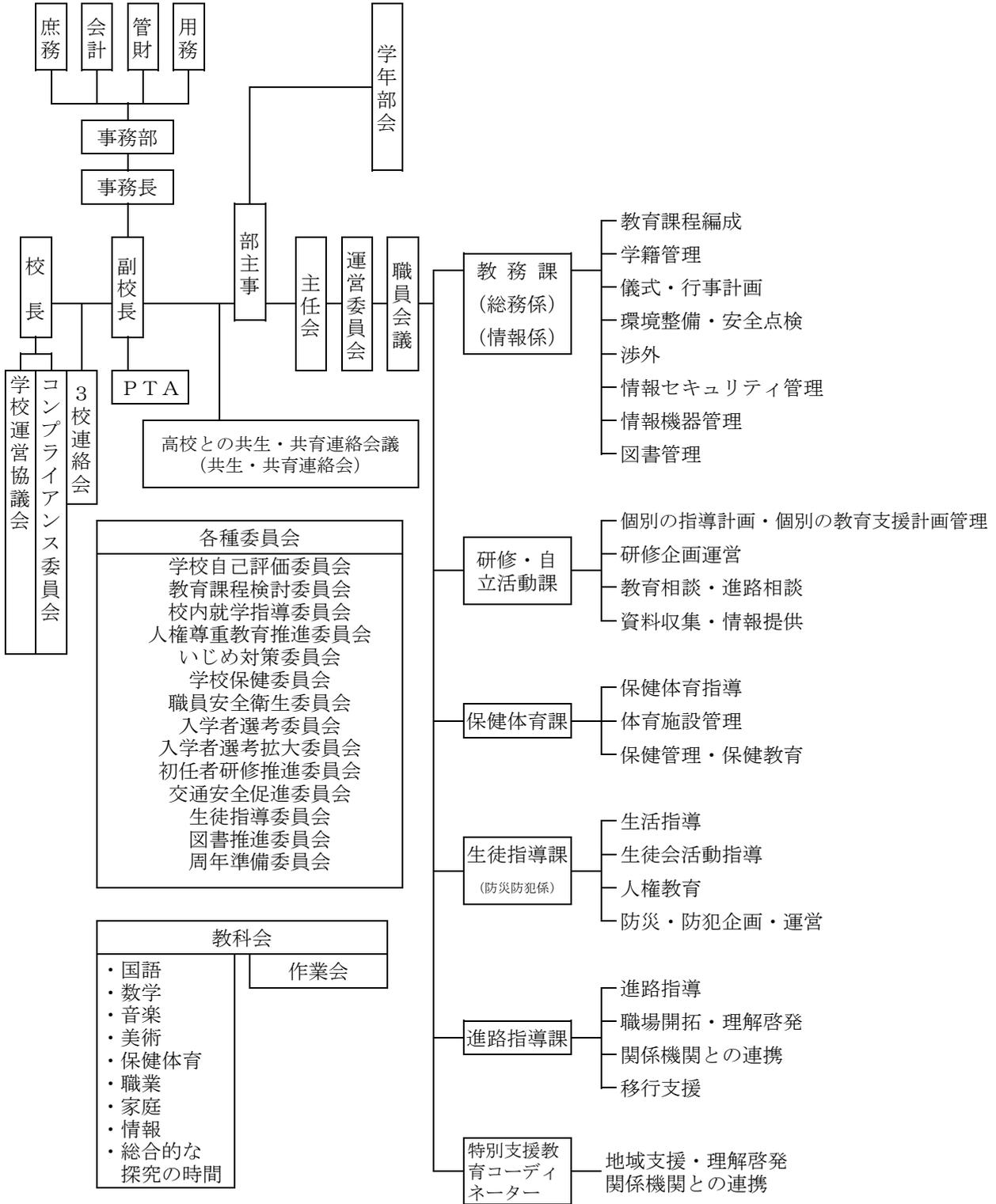
【本校】



【伊豆田方分校】



【愛鷹分校】



【 共に育てる 自立と輝き 】

ー 子どもの能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する ー

「共に」とは学校、保護者、地域の人たちと共に、さらに児童生徒同士、そして児童生徒が自分自身を育て成長するという意味を持つ。

そして「自立」は児童生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人や社会との関わりが広がることとし、「輝き」は自分の良いところを伸ばし、他者から認められ、自信をもって生きる姿、生きる力を高めることと捉える。目指す学校像として、「安全」「専門」「連携」「チーム」の4つの柱を掲げ、自立と輝く力を育てる学校をめざす。

<本校>

- (1) 命を守る教育により、児童生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全)
- (2) 児童生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校 (専門)
- (3) 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校 (連携)
- (4) 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校 (チーム)

<伊豆田方分校>

- (1) 命を守る教育により、生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全)
- (2) 生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校 (専門)
- (3) 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校 (連携)
- (4) 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校 (チーム)

<愛鷹分校>

- (1) 命を守る教育により、生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全)
- (2) 生徒の能力を最大限に伸ばし、個に適した支援及び指導ができる学校 (専門)
- (3) 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会の実現を目指す学校 (連携)
- (4) 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校 (チーム)

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和3年度の取組目標への評価及び成果と課題

<本校>

ア 命を守る教育により、児童生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【防災・防犯・安全】 児童生徒自らが命を守る意識と行動力を高める。	・児童生徒の実態に応じた防災学習 各学年1回以上 ・交通安全教室を実施 各学年1回	・防災訓練の事前事後で児童生徒の実態に応じて防災学習を行った。 ・児童生徒にあった計画を立て、学年ごと実施できた。	A	・密にならないように学校全体での訓練等はできなかったが、教材教具を使い、個別にあった指導を行うことができた。
【人権教育・道徳教育】	・「研修会の内容を意識して指導・支援	・人権教育を意識してできた、概ねできた	B	・人権教育についてほとんどの人が意識できているが、

人権に配慮した働きかけに留意すると共に道徳教育の推進に努める	にあたることができた」と答える教員 80%以上 ・「全体計画、年間指導計画を参考に実践できた」と答える教員 80%以上	と回答した教職員 99%。また、保護者アンケートでは、そう思う、だいたいそう思う人が95%だった。 ・できた、概ねできたと回答した教員 88%。		個々によりその感覚が違うことを感じる。継続していく。 ・道徳の授業づくりや評価の難しさを感じる教員も多く見られ、今後も研修を深めていく。
【健康】 児童生徒の健康管理、事故防止の徹底を図る	・アレルギーに関する事故 0件 ・緊急体制訓練各学年2回実施 ・性に関する研修会の実施 ・「保健指導年間計画に沿って保健指導ができた」と答える教員 80%以上 ・廊下に保管している物品の整理と削減により防災上問題となる保管物品 0件 ・体育施設での重大事故0件、安全点検実施 週1回	・事故0件。 ・学年ごとの自主訓練を呼びかけ、各学部、学年で実施した。 ・性に関する教員向け研修会を実施。保護者向けの学習会を動画で実施した。48%の保護者が視聴し、好評を得た。 ・保健指導について、できた、概ねできたと回答した教員 87%。 ・98%の教職員が整理整頓につとめたと回答。防災上問題となる保管物品は0件。 ・事故0件、安全点検週1回実施できた。	A	・アレルギーに関すること、緊急時の体制について等、日々、意識を高く持ち、行っている。 ・保健指導について実態に沿った日々の指導を継続的に積み上げていく。 ・整理整頓に努め、事故防止の意識もたかまわっている。今後も整理整頓、廊下に物を置かないなど全体の共通意識を持てるようにしていく。

イ 児童生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校（専門性）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【授業】 新学習指導要領を踏まえた授業実践を行い、児童生徒の主体的な学びを深める	・「授業づくりに学習指導要領の目標や内容を意識した」と答える教員 80%以上	・できた、概ねできたと回答した教員 100%。	B	研修をとおり、主体的な学びを深めていく。
【専門性】 小中高12年間のつながりを意識した指導の充実を図る。	・個別の指導計画の成果と課題の見直し年4回 ・本校のキャリア教育を意識して指導した教員 80%以上 ・「新学習指導要領に基づいた授業づくりが意識できた」と感じる教員 80%（教・部） ・検討会 年1回実施	・ケース会議3回に加え、12月に1回、各学年で実施。 ・キャリア教育を意識してできた、概ねできたと回答した教員 94%。 ・学習指導要領に基づいた授業づくりが意識できた、概ねできたと回答した教員 89%。 ・検討委員会実施。	B	・キャリア教育について、各学部での取り組みで、意識できているが、今後はつながりがわかるよう全体計画を整備していく。 ・年間指導計画の見直しを行い、検討委員会をおこなったことで学習指導要領の内容と年間指導計画の関連、小中高のつながりを再確認できた。継続していく。

【ICT】 積極的にICT を活用した授業 づくりを実践す る	・ICTを活用した 授業公開を実施 し、研修記録を掲 示板で紹介各学部 1回	・ipadを活用した授業 やzoomを利用した学 校間交流を各学部で 行った。	B	・さらに、ipadを活用した授 業していけるよう、授業記 録を掲示板等で共有してい く。
【予算】 各学部の授業が スムーズに展開 できるように予 算を計画的に執 行する 学校図書館の書 籍、活動の充実 を図る	・第3四半期まで (12月末)の学校経 営予算執行率 70%以上 ・本に親しむ機会を 増やすことがで きた職員80%以上	予算執行は70%を達成 できた。全学部とも に、児童生徒が本に親 しむ機会を増やすこと ができた。	A	図書館の充実が研究として取り 組み、読み聞かせ動画の配信 や、おすすめ本紹介、図書室開 放の増加等により、各学部で読 書活動の充実を図ることがで きた。効果的な取組は次年度も継 続していく。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校 (連携)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【共生・共育】 地域資源を活用 した授業や地域 の方と一緒に取 り組む活動で共 生社会を推進 し、地域に貢献 する活動を行う	・地域資源を活用し た授業実践 学 年1回以上 ・来年度も実施した いと考える保護 者 90%以上 ・学校だより 年6回 発行 ・ホームページの更 新 各学部月2 回以上	・東レアローズや原町 商店街、原地区セン ター等地域との授業 実践を行った。 ・居住地校交流を希望 していた児童生徒の 55%の実施率だっ た。 ・月1回の更新となっ た。	B	・地域との交流、居住地校交流 とともに、コロナ禍の中、制 限されることも多かった が、できる限り実施した。 継続していく。 ・本校について知ってもらうた めに、ホームページ自体、 見やすさを意識したもの に作り替えていく。
【校内支援】 外部専門家等を 活用した取組や 地域支援の成果 を校内支援に活 かした教育活動 を展開する	・助言内容等を掲示 板で紹介 各課2 回以上	・「夏季事例検討会」 「身体のこと相談 会」「聴覚訪問指 導」「はごろも夢講 演会」を実施。	A	・地域の小中高、特支から多 くの先生が参加し、好評を いただいた。 ・地域の中の特別支援学校と してセンター的機能を推進 していく。
【センター的機 能】 関係機関や地域 とのつながりを 大切にし、セン ター的機能の充 実を図る	・要請のあった学校 への対応 100% ・必要な生徒に対す る支援会議の実施 と対応 100%	・要請に対し100%実 施小学校1校 沼津 市巡回相談6校 ・実施校内支援会議14 回ケース会議13回 いずれも昨年度以上か 同回数実施	A	・小・中学校から転校または 入学してくる児童生徒につ いて、早めから支援できる ように、各学部で地域連携 コーディネーターをおき、 小・中学校との連携を深め ていく。

エ 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校 (チーム)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【業務改善】 働きがいのある 学校にするため の業務改善の推 進を行う。	・働きがい(やりが い)を感じて指導 を行えたと答える 教員 80%	・働きがいを感じて指 導ができた、概ねで きたと回答した教員 が96%。	A	・焦点化が進み、会議の持ち 方も効率的になった。今後 は、会議の焦点化を図りな がら、充実した話し合いを 求めている。
【予算】 学校運営がスム	・第3四半期まで (12月末)の学校経	・コロナの影響によ り、行事や出張の件	B	・設備の修繕について、安全 点検をとおして事務担当と

一ズに展開できるように予算を計画的に執行する。	営予算執行率 70%以上	数減となり旅費の執行ができなかったため、全体で 69%となった。		教職員がつながり、早期の修繕につながった。今後も継続していく。
-------------------------	--------------	----------------------------------	--	---------------------------------

<伊豆田方分校>

ア 命と人権を守る教育により、生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全・安心)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
非常時に、自分から命を守る行動がとれる生徒の育成	<p>発災時に自分で判断して行動できると答える生徒 80%</p> <p>自分の行動を考え、意識できる実践的な防災防犯訓練。分校独自で年 3 回以上</p>	<p>・発災時に自分で判断して行動できると答える生徒 75%</p> <p>・作業学習中の設定で個別やグループに分かれた活動場所での防災訓練の実施。学年毎、学部全体、職員シミュレーション等での実施 3 回</p>	A	<p>・総合的な探求の時間での防災教育の位置付け、ふじのくにジュニア防災士取得の取組等により、生徒、職員の意識の向上につながった。</p> <p>・個々の生徒自身の目標値が上がったことを受け、防災、防犯とも、知識だけでなく、行動に結び付けられるような具体的な体験の場をもち学びを高め、家庭・地域とも連携を図り、自分で判断して行動したという意識につなげるようにしたい。</p>
各自が自分の良さを知り、仲間の良さを認めることができる	<p>仲間の良さを認め、自分の良さに気付く生徒 80%以上</p> <p>教師、学校を信頼できると答える生徒、保護者 80%以上</p> <p>SNS 利用に関する授業の実施。各学年 1 回以上</p>	<p>・仲間の良さを認め、自分の良さに気付く生徒 84%</p> <p>・教師、学校を信頼できると答える生徒 80%、保護者 95%</p> <p>・学年で学期毎に等で、HR 等、担任で実施。</p>	B	<p>・コロナ禍による学校行事の中止と延期等が、新入生のクラス作り、絆作りに影響していたことが分かった。</p> <p>・コロナ禍でも可能な範囲で外部専門家を利用したり、教員の人権感覚を高める研修等を行い学び合いの場を確保したり工夫しながら、ねらいに沿った学校教育活動の実現に向けた取組を行いたい。</p>
学校の危機管理体制の強化	<p>年間の学校事故、ヒヤリハット件数削減</p> <p>発災時の課題が明らかになり課題が解消される。</p> <p>P T A 安否訓練年 2 回以上</p> <p>外部講師を招いての防犯、防災に対する研修会の実施。年 2 回以上</p>	<p>・学校事故 1 件、ヒヤリハット 3 件</p> <p>・想定を見直し、危機管理マニュアルを改訂した。</p> <p>・昨年度の課題を受けたシミュレーションのみ実施</p> <p>・東部危機管理局との連携で職員研修、生徒防災講座を実施。防犯訓練はマニュアルの確認のみ実施。</p>	B	<p>・危機管理については、保健 衛生、安全、防災、防犯と主管部署が分かれており、共通認識を進めながら、教員の全体周知の難しさがあったが、危機管理マニュアルの改訂が整備の必要性の意識につながった。</p> <p>・課題を職員間で共有し、さらにマニュアルの内容の整理を進めながら、学校安全計画に沿った取組へつなげたい。</p>

イ 生徒の力を最大限伸ばし、きめの細かい指導と支援ができる学校 (専門性)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
働くことの意義が分かり、社会自立への知識を身に付け、意識を高める	作業学習と職業を関連させた授業を実践する。 職場実習で学習の成果を発揮できたと実感できる生徒 80%以上 作業学習を通して人や地域とのつながりを実感できる生徒 80%以上	・昨年度までの修の成果を生かした年間指導計画の中で実施。 ・職場実習で学習の成果を発揮できたと実感できる生徒 94% ・作業学習を通して人や地域とのつながりを実感できる生徒 86%	B	・コロナ禍のために、職場実習の激励会、報告会の方法、地域とのつながりの場の設定の変更があったことで、同様の取組み方では本来のねらいに迫ることが難しいことが分かった。 ・キャリア教育の視点から、ねらいを整理し、コロナ禍の代替ではなく、ねらいに沿った内容や方法の見直しを行い、職場実習を学習評価の柱とした3年間の教育課程等の見直しと絡めながら次年度検討する。
特別支援教育にかかわる専門性の向上	新学習指導要領を踏まえた授業を実践していると感じられる教員 80%以上 生徒の自主性の伸長が実感できる教員 80%以上	・新学習指導要領を踏まえた授業を実践していると感じられる教員 84% ・生徒の自主性の伸長が実感できる教員 100%	A	・総合的な探求の時間での防災教育への取組の中で、3観点からの目標を立て思考活動につなげた実践が、目指す生徒の姿につながったことを全教員が実感した。 ・更に全ての教科等での学習評価を生かした実践に広がっていきたい。
個別の教育支援計画、個別の指導計画の内容充実と有効活用	生徒が自己理解を進め、的確な目標立てができる。 個別の教育支援計画、個別の指導計画を通して、子どもの成長を実感できる保護者 80%以上	・担任等との相談で、全生徒が個別の指導計画の目標立てを行った。 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を通して、子どもの成長を実感できる保護者 91%	B	・個別の指導計画の様式の項目に加え、面談、連絡帳、その他丁寧な保護者とのやりとりで情報共有がされていると感じる保護者が多く大方の理解を得た。 ・個別の指導計画の目標設定について、生徒自身の自己理解を深め、3年間の指導を見据えた、自立活動の指導や生徒指導の配慮等の基となる内容の吟味について教員のアセスメント力等を養う研修も必要である。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、地域で学び、地域で認められる学校（地域支援）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
田方農業高校との互いに尊重し高め合える関係作り	田農生との共同学習、行事に魅力を感じる生徒 80%以上 田農生との交流学习、行事でねらいが達成されたと感じる教員 80%以上	・田農生との共同学習、行事に魅力を感じる生徒 93% ・田農生との交流学习、行事でねらいが達成されたと感じる教員 94%	A	・コロナ禍で計画の変更はあったが、できる範囲の取組の中でねらいが達成された。 ・引き続きコロナ禍対応での活動の工夫、田農との共同授業等で生徒自身が感じる学びや成長を生かした取組の工夫等をしながら、実践を継続していききたい。
田方圏域におけるセンター的役割を果たす	学区内小中校、連携高校への本校に対する要望調査実施。	・各教育委員会へチラシを配布し、理解啓発を行った。保護	B	・圏域教育委員会へ特別支援教育の内容を具体的に示したチラシで案内したことで、小・中学校からの相談につながることが

	田方農業高校との特別支援教育に関する連携会議、ケース会議への参加数、前年比増	<p>者からの相談2件、ケース会、職員会への支援3件につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は田農から事例ケース支援の依頼は無かった。障害理解授業の授業講師の依頼1件。 		<p>できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度、田方農業高校コーディネーターとの連携による働きかけや、伊豆の国特別支援学校を加えた、地域ネットワーク体制についても、新たに構築していきたい。
地域資源を活用した学習の充実	<p>生徒のニーズに応じた事業所の開拓5件以上</p> <p>地域を学びの場とした学習の充実を実感できる生徒80%以上</p> <p>地域の協力者の前年比増</p> <p>2校作業学習交流の実施年2回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開拓15件以上 ・地域を学びの場とした学習の充実を実感できる生徒86% ・コロナ禍対応で新たな呼びかけを行わず。 ・コロナ禍対応で実施を自粛。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した取組は、コロナ禍のため、例年より縮小された。 ・引き続き、コロナ禍で対応できる方法の工夫と、成果を生かす工夫や、成果の発信を行いたい。

エ 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校（チーム学校）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
的確な情報共有や報告・連絡・調整ができるような体制を整える	<p>情報共有が的確に行われ協働して自らの専門性を発揮できたと答える教職員80%以上</p> <p>実際の指導につながる生徒理解が深まったと答える教職員80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有が的確に行われ協働して自らの専門性を発揮できたと答える教職員78% ・実際の指導につながる生徒理解が深まったと答える教職員84% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解日の設定で、生徒の心身の状況、家庭の環境等の情報を教員間で共有し生徒指導につなげることができた。 ・共有する情報の範囲と内容、方法（時差による内容の齟齬等）について、今後、共通認識を図りたい。
教材研究や準備の時間を確保し、時間外勤務を削減す	<p>適正な空き時間や授業持ち時間を管理し、教材研究や準備の時間を確保する。</p> <p>完全定時退勤日（午後5時30分施錠）を月2回完全実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部体制で適正な空き時間の設定、実際の実施状況を調査して把握した。 ・10月から試行的に、月3回の定時退勤日を設定した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・空き時間を活用した業務の推進、定時退勤日の増設で、業務の効率化を求められる意識付けは進んでいるが、実績に反映されていない。 ・次年度、定時退勤日を毎週設けることでさらに習慣化図りたい。
会議の削減と会議の短縮化、効率化に努める	<p>学校課題に応じ、会議の短縮化、効率化を意識できたと答える教職員80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に応じ、会議の短縮化、効率化を意識できたと答える教職員84% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の短縮化の意識から、協議内容を精選し、時間の短縮が図れた。 ・本来的な協議の場の確保のために次年度に向けて、放課後の運用、会議の設定について検討したい。

<愛鷹分校>

ア 命を守る教育により，生徒が安全に安心して学習できる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【防災・防犯・安全】 生徒が自ら命を守る意識と行動力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 「災害や犯罪から命を守ることができる生徒を育てた」と答える教員 80% 「緊急時における対応力が向上した」と答える教員 80% 「けがを防止したり，自分で判断して行動したりできる生徒を育てた」と答える教員 80% 「自助共助公助が分かり，行動ができる生徒を育てた」と答える教員 85% 	<ul style="list-style-type: none"> 災害や犯罪から命を守ることができる生徒を育てた 94.8% 緊急時における対応力が向上した 89.5% けがを防止したり，自分で判断して行動したりできる生徒を育てた 100% 自助共助公助が分かり，行動ができる生徒を育てた 100% 	A	沼津城北高校との防災訓練では地区別に分かれる活動を行い，お互いを知る機会を設定することができた。今後は，今年度の取り組みを更に深め，生徒が居住地を意識した防災活動につなげていきたい。 エピペンの使い方や緊急通報訓練を行い，職員の緊急時の対応について意識が向上した。 作業学習や体育での授業の中で道具の正しい使い方や準備運動を生徒が分かるように，指導することができた。1年生の門池地区の方との学習や2年生のロゲイニングや県防災センターでの学習を通して，生徒の防災意識が高まった。
【人権教育・道徳教育】 人権意識を高める指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳の授業が行える指導体制ができた」と答える教員 80% 「人権意識が向上した」と答える教職員 85% 「人の気持ちがわかる，仲間と協力できる生徒を育てた」と答える教員 85% 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業が行える指導体制ができた 57.9% 人権意識が向上した 100% 人の気持ちがわかる，仲間と協力できる生徒を育てた 100% 	B	職員の道徳研修を行い，学習指導要領の確認や授業について学んだ。また，道徳全体計画を改定した。今後は，全体計画を踏まえ，計画的に授業ができるよう取り組んでいく。 人権研修やチェックリストの実施により，職員の人権意識を高めることができた。日頃の教育活動で，相手の気持ちを考えたり，仲間と協力したりできる生徒が増えてきた。 個別面談を実施し，生徒との信頼関係を築くことができた。今後は個別面談期間だけでなく，学期始めや学期末など，学年で時間を設定し，今まで以上に本人の思いを大切にしたい。
【生徒指導】 学校や社会のルールを守って，安全に安心して生活することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 「ルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てた」と答える教員 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てた 100% 	A	HRで，生徒会規約を利用し学校のルールを確認したり，交通ルールを確認したりすることで，安全に対する意識を高めることができた。 スマホの使い方やLINEの使い方を外部講師から学んだことで，スマホの使い方や個人情報の取扱いについて意識を高めることができた。今後も，継続的に指導していく。

イ 生徒のもてる力を最大限に伸ばし、個に適した支援及び指導ができる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【授業改善】 新学習指導要領を踏まえ、働くことの大切さを理解して、主体的に学び合う授業づくりを実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒の良さや主体的な姿を引き出すことを目指す授業のための話し合いができた」と答える教員 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の良さや主体的な姿を引き出すことを目指す授業のための話し合いができた 100% 	A	今年度から職業を窓口研修を進めた。教科横断的な視点を考えるとともに、学年間の系統性にも目を向け、主体的に働く生徒を育てる授業づくりに取り組んだ。学年で研修を重ねることにより、生徒の実態に合わせ、卒業後を見据えた授業づくりができた。今後は、働くことだけでなく、卒業後の生活を含め、3年間で行う系統的な学習計画を立て、授業づくりを行っていく。
【専門性】 キャリア教育の視点に基づいた校内における専門性の向上と継承をする。	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てた」と答える教員 80% 「実習評価表を活用した目標等を設定できた」と答える教員 80% 「新学習指導要領を意識し深い学びが展開できる授業を実施した」と答える教員 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てた 100% 実習評価表を活用した目標等を設定できた 94.8% 新学習指導要領を意識し深い学びが展開できる授業を実施した 89.5% 	A	職場実習の目標を明確することで、主体的に取り組む事ができた生徒が多かった、また、職場実習後に、実習評価表を活用して振り返ることで、自分の成果と課題がわかり、働き方の改善をすることができた。 職業を中心に、各教科の学習内容の見直しを行っている。教科間のつながりを意識して、教科横断的な視点で、学習内容に取り組むことで、生徒の学習理解を進めていきたい。
【ICT】 ICTを活用し、生徒が主体的に取り組む授業づくりを実践する	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTを活用した指導を行い、授業力が向上した」と答える教員 70% 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した指導を行い、授業力が向上した 89.5% 	A	ICT学習会で、プロジェクターを活用した授業やオンラインを利用した授業について学んだ。オンラインを使って、学習できたことは効果的だった。今後は、アプリの利用についても教材研究をし、授業に活かしていきたい。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生・共育の充実を図る学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【共生・共育】 隣接高等学校や地域との交流活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒が主体的に交流できる活動の機会を持った」と答える教員 80% 「共に活動し、気持ちを共有する生徒を育てた」と答える教員 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に交流できる活動の機会を持った 73.7% 共に活動し、気持ちを共有する生徒を育てた 89.5% 	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、交流が少ない状況であった。このような状況下であったが、2学期からサッカー部との交流ができ、生徒同士のコミュニケーションを取ることができた。地域との交流では、感染症対策をしながら、門池福祉まつりでの販売や光長寺保育園などと交流できたことで、人との接し方について学んだ。今後も、感染症対策をし、体験的な活動の充実を図っていきたい。
【センター的機能・理解啓発】	<ul style="list-style-type: none"> 「愛鷹分校の教育活動や様子の 	<ul style="list-style-type: none"> 愛鷹分校の教育活動や様子 	B	本校見学8校、部主事の中学校訪問2校を実施した。昨年度に比べ

地域の学校や関係機関等との連携を図り、特別支援教育の理解啓発に努める。	発信できた」と答える教職員 85% ・「中学校や関係機関と連携し、生徒や保護者の指導や支援の相談ができた」と答える教員 80%	の発信できた 78.9% ・中学校や関係機関と連携し、生徒や保護者の指導や支援の相談ができた 100%		回数が増え、分校の様子を発信したり、支援の相談を受けたりすることができた。今後も、本校見学や学校訪問を通じ、小中学生が早い段階から将来の生活を意識できるよう連携を図っていきたい。
--	--	--	--	---

エ 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく、迅速に業務を遂行できる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【マネジメント力の育成】 計画的、効率的な業務遂行の力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 「見通しを持った計画的効率的な業務の取組みができた」と答える教員 85% 「業務遂行力や課題解決力が定着した」と答える教員 80% 「課題の洗い出しと改善に向けたチーム体制が取れた」と答える教員 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持った計画的効率的な業務の取組みができた 94.7% 業務遂行力や課題解決力が定着した 94.7% 課題の洗い出しと改善に向けたチーム体制が取れた 89.5% 	A	コロナ禍の中、変更が出ても、全体的には年間計画を見通し、早い段階から会議を進めることができたが、行事によっては打ち合わせが遅れることもあったため、余裕をもって取り組めるようにしていきたい。 OJTやメンターの研修を行うことで、以前よりも引き継ぎや連携がスムーズに取れるようになってきた。 今後は、さらなる業務の精選や振り分けをし、効率的に業務を行えるようにしていきたい。
【本校との連携】 学校運営に関わる事務手続き、予算の計画的な執行等、本校事務との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 「本校事務と連携して、事務手続きや予算の執行ができた」と答える教員 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 本校事務と連携して、事務手続きや予算の執行ができた 94.7% 	A	定期的な事務職員との打ち合わせや連絡票のやり取りで、確実に事務業務が行われた。また、沼津城北高校の事務職員とも連携が図れた。今後も、事務職員の定期的な打ち合わせや連絡票を活用して、連携して、滞りない事務手続きや予算執行を行っていきたい。

(2) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

<本校>

ア 命を守る教育により、児童生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
児童生徒の命と人権を守る取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各自、人権にかかわる取り組み目標を設定し、目標を「達成できた」と答える教職員 100% (生徒) 	前期末のチェックシートの集計で低かった項目を啓蒙ポスター等で周知を行った。「達成できた」98%	B	チェックシート集計から全体で取り組む重点を策定する。年度当初の個人目標への意識を持続する策を講じる。
	<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアルを意識して防災教育を「実施できた」と答える教員90%以上 (防災) 	年度初めにマニュアルの説明会を開いて共通理解を図り、訓練の種類毎に掲示板でマニュアルのポイントを伝えた。「実施できた」100%	A	コロナ対応のため、全校での垂直避難や、外部講師による煙体験、不審者対応訓練が実施できていない。

<ul style="list-style-type: none"> アレルギー、医療的ケアに関する事故0件 (保健) 	毎月アレルギー表を読み合わせ給食安全に提供できるようにした。事故0件	B	対応の確認が余裕を持ってできるように手順を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 緊急体制訓練の実施 各学部2回 (保健) 	日程を学部間で調整し救命救急法講習会や緊急対応訓練を実施した。緊急体制訓練各学部2回実施		ファイルの場所、記入方法、使用方法を周知し、動画を活用して訓練を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 避難経路となる廊下に、防災上問題となる保管物品0件 (総務) 	安全点検表にチェック項目を設けて毎月点検を行った。実習助手と連携して物品整理や校内美化に努めた。	B	職員作業を計画的に実施するとともに、ごみの分別について積極的に呼び掛ける。
<ul style="list-style-type: none"> 体育施設での重大事故0件、体育施設、備品安全点検実施週1回(体育) 	毎週末清掃時に体育施設の安全点検(運動場・体育館)を行った。安全点検毎週実施、重大事故0件	A	課外の教員にも体育施設の管理について意識し取り組めるよう呼びかけていく。

イ 児童生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校 (専門)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
入学から卒業後までのつながりを意識した指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に関する、「12年間のつながり検討会」を受けて改善が図れたと答える教員90%以上 (教務) 	他の学年学部を意識した系統性のある授業か見直す研修(12年間のつながり検討会)を実施し、各学部の年間指導計画を1フォルダにまとめた。改善が図れた 89%	B	各学部の年間指導計画を確認しやすくするための共通フォルダの校内での周知をさらに徹底する。
	<ul style="list-style-type: none"> 「教員間で話し合っけて策定し、目標や評価について保護者と共有できた」と答える教員90%以上 (自立) 	県の標準様式等を踏まえ、より保護者や教員にとって分かりやすく使いやすいものとなるように、書式の検討を行った。「共有できた」100%	B	書式の検討が進んだが、学部間で共通化したマニュアルの活用について呼び掛けを増やしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業または公開研究会を通して、児童生徒が成長を実感できるための支援を考えたことができた教員90%以上 (研修) 	目標設定から学習評価までの一連の流れを体系化した授業づくりのパッケージを使い、資質・能力の伸長を図る学校研修を推進した。「成長を実感できる支援を考えたことができた」100%	B	書式の煩雑さを改善し、取組の定着を図る。全員での授業公開や中心授業方式など形態の選択をする。
	<ul style="list-style-type: none"> アプリやICT機器を活用した授業を実施し、その内容を職員会議で情報共有 各学部年1回 (情報) 	ICT 機器の学習支援やアプリの紹介をするとともに、授業での ICT 機器の使用方法を公開し情報共有を図った。職員会議での情報共有 1回 各学部 1回	A	校内でのアプリ利用申請のシステム構築を進める。1人1アカウントの取得と活用体制を整備する。
	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いた授業やスポーツや芸術の実演に触れる機会年1回以上 (学部) 	小学部1回(東レアローズ体験) 中学部2回(アスルクラロサッカー教室・書道家実演・交流) 高等部1回(アフリカ民族楽器)	A	感染症対策をしながら外部人材や地域資源を活用した自然、文化、スポーツの体験的学習を実施できた。

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校 (連携)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
地域や関係機関とのつながりを大切にしたい切れない指導と支援の充実	・ 共同学習の方法(直接・間接)を工夫し、学年1回以上 ・ 交流校との連携を図り、希望者の実施90%以上(学部)	(共同学習) 小学部各学年2~4回 中学部7回 高等部各学年1回 (交流希望者の実施) 小学部 95%、中学部 100%	A	学校間交流や交流せ貴校との交流について、意義や成果を相手校と共有できるための協議や事前学習を充実させたい。
	・ 学校だより年6回発行 ・ 沼特ギャラリー(HP上での作品展示)年3回以上更新(総務)	学校だより発行 年6回 沼特ギャラリーの更新年3回	A	作品を計画的に集める。校外での作品展示状況について、様子を伝える広報をする。
	・ 月間のホームページ閲覧者数を児童生徒数以上(情報)	計画的なホームページの更新を推奨し、支援した。 月間閲覧数 平均 1,350人	A	年度当初に肖像権等の確認業務をスムーズに実施する。
	・ 校内外における、支援が必要な生徒に対する支援会議の実施と対応100%(地域・進路)	会議の必要が生じたときには、その都度、的確に対応できた。 支援会議の実施・対応 100%	A	学区内の特別支援学級や域内の高等学校等との連携を深めたい。
	・ 「保護者や関係機関と情報共有ができた」と答える、支援会議に参加した教員90%(進路)	支援会議に参加した教員と確実に情報の共有ができた。 「情報共有ができた」100%	A	進路説明会・学習会の開催方法や内容を検討し、保護者への情報提供を充実させる。

エ 教職員のチーム意識を大切に、効率よく迅速に業務を遂行できる学校 (チーム)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
働きがいのある学校にするための業務改善の推進	・ 会議の焦点化に努めるとともに、「深い話をするのができた」と答える教職員90%以上(業務改善)	学年主任、分掌課長を中心に、焦点化や深い話し合いを意識した会議を推進した。 「深い話ができる」83%	B	限られた時間の中での会議の持ち方について一層工夫しながら、焦点化、深まりを追究し、働きがいに繋げたい。
	・ 教職員への情報伝達100%(事務)	工事や修繕の工程をはじめ、会計・給与などの事務関係の情報を発信できた。	A	引き続き迅速な情報提供により、業務の滞りない実施に寄与する。

ア 命を守る教育により、生徒が安全に安心して学習できる学校（安全）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
生徒の自主的な行動につながる防災教育の取組	<p>①在宅時、通学途上も含め、発災時に自分で判断して行動したいと答える生徒 80%以上</p> <p>②在宅時、通学途上も含め、発災時の避難行動等について、家族内で確認したり、防災意識をもつようになった保護者 80%以上</p> <p>③在宅時、通学途上も含め、発災時の具体的な行動力に結びつける防災教育を行なっている教員 80%以上</p>	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 85%</p> <p>②保護者アンケートにおいて「できた」と回答した保護者 78%</p> <p>③教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時における家庭や地域での対応にまで学習機会を広げることができた。 ・災害に対して体験的に自分事として取り組める授業がなされている。 ・3年間の積み上げにより防災ハンドブックが完成することも良い。 ・生徒の学習をより実践に活かせるよう、保護者や田農と連携した訓練を計画・実施したい。
生徒の意思表示や行動力につながる自尊感情を高めるための生徒指導や人権教育の取組	<p>①②「自分の良さが分かり、自分の意見や考えをもって行動する力がついてきた。」と答える生徒と保護者 80%以上</p> <p>③生徒への働きかけの前に、「あなたはどう思う？」を意識してやりとりをしている教員 80%以上</p>	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 73%</p> <p>②保護者アンケートにおいて「できた」と回答した保護者 100%</p> <p>③教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは生徒の話聞くことを心掛けた。学習以外でも良い部分を褒め、普段から生徒との関係作りが浸透しつつある。 ・気になる生徒についても、学年を超えて情報交換をしたり指導したりしたい。 ・生徒に寄り添いつつ、成長をサポートしていくことのできる教師集団であり続けたい。 ・今後は、心理的安定を図るための関わり方の徹底を図りたい。 ・誰もが快適な分かりやすい学校を目指し、言葉掛

				けや掲示物などの情報を整理したり、デジタルデータの管理も行いたい。
生徒が心や体の健康等の自己管理能力の向上を図る指導への取組	<p>①「保健指導」や「性の指導」等で学んだことを、生活の中で生かしていこうと考える生徒 80%以上</p> <p>②生活の中で生かす力につなげる視点から保健指導や性の指導等を実践した教員 80%以上</p>	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 85%</p> <p>②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 79%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の協力により、指導が充実した。家庭や地域生活にも返していきたい。 ・性の多様性を大切にし、多様な視点からの性教育を行いたい。性犯罪などに巻き込まれないよう定期的に指導したい。 ・性や生理、清潔、などの指導の必要性を強く感じる。年間計画を活かした取り組みができると良い。 ・懇談会などを活用した家庭への情報提供を行いたい。 ・福祉・行政等の協力を得ながらの安全指導にも広げたい。
道徳教育全体計画に沿った道徳教育の実践	<p>①特別な教科「道徳」での学びを生活の中で生かしていこうとする生徒 80%以上</p> <p>②特別な教科「道徳」での学習評価を生徒理解に生かしている教員 80%以上</p>	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 80%</p> <p>②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 82%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から引き続き、勉強会を開催し、道徳の捉え方や評価の仕方などを学ぶことができた。 ・授業は今年からなのでまだ試行錯誤の段階だと思われる。 ・ICTを活用して、生徒の本音にせまったり意見を拾い上げたりして、リアリティのある等身大の学びができている。

イ 生徒の能力を最大限伸ばし、個に応じた指導及び支援ができる学校（専門）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
<p>学びの価値や成長を実感できる授業研究や公開研究会の実施</p>	<p>①学び、考えることが楽しいと答える生徒 80%以上</p> <p>②生徒の考える姿を引き出す授業力を高めたと感じる教員 80%以上</p>	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 93%</p> <p>②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して生徒主体の授業作りを学ぶことができた。更に教育課程全般で、考える姿を求めている。 ・生徒が成果を出すまでじっくり待つ姿勢も大切にしていきたい。 ・作業学習では、一日通して働く経験を積めるように、週に1日や月に2回程度、終日作業学習の日があっても良い。教育課程を再考したい。 ・地域に出やすい作業学習の整備を進めていきたい。
<p>3年間を見通した計画の中で、学習評価を生かした作業学習と職業科の実践</p>	<p>①作業学習や職業等、学校で身に付けた力を職場実習で発揮していると答える生徒 80%以上</p> <p>②「就労しながら豊かに生活する将来の姿」を見据えた目標を設定し、働きかけや学びのフィードバックについての支援を意識している教員 80%以上</p>	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 93%</p> <p>②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導課が各学年の意向に寄り添い、丁寧な対応をしている。卒業後の生活をイメージして、本人を含め家庭の協力を得ながら進路指導を進めていきたい。 ・状況が許せば、職業やその他教科でも縦割りの学習の機会を増やしたい。教えたり教えられたり、生徒の学びが多いと考える。 ・1日を通して作業学習を実施する日があると良い。 ・保護者への進路情報提供を充実させ、本人や家庭がより主体的に進路選択ができるようにしたい。

<p>授業で活用できるアプリ等の紹介とICTを活用した授業の実践とその発信</p>	<p>①②自らの情報活用能力が向上したと答える生徒及び教員 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実践全般の成果について、HP等での発信、各教員年1回以上 	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 90%</p> <p>②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種儀式や集会、通常授業においてICT機器を活用した。 ・導入した機器やアプリの最大限の活用がなされている。 ・アプリ・プロジェクターと板書を併用するなど、デジタルとアナログを併せて活用ができた。 ・機器が増えた分、セキュリティをしっかりと守るように周知徹底をしていきたい。
---	---	--	----------	---

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会を目指す学校（連携）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
<p>田農との共同授業、交流授業等の計画的な実践とその成果の情報発信</p>	<p>①田方農業高校との共同学習、行事に魅力を感じる生徒 80%以上</p> <p>②将来につながるコミュニケーション力の育成の場として、田農生との共生・共育の良さを生かす働きかけをしている教員 80%以上</p>	<p>①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 88%</p> <p>②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にもっと出ていく活動があるとよい。生徒同士がもう少し自分たちで交流を進めていけると、より良いと考える。 ・同年代をはじめ、いろいろな立場の方々とのコミュニケーション機会が充実していた。 ・製品の在庫がある時や野菜が豊富に収穫できた時など、臨時で販売できる機会を設けていけるとよい。（田農や伊豆仁田駅等） ・地域の人材バンクも活用していけると良い。 ・地域の行事やお祭りなどに参加し、作業製品の販売がもう少しできると良い。 ・今後も地域資源や外部組

				織との協働活動を充実させたい。
的確な進路等の個別の支援のために必要な、ケース会議、移行支援会議の実施。そのための関係機関、地域人材の活用と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性のある生徒に対するケース会議等の実施等 100% ①校内（保護者を含む）外の人材活用や連携によって得られた情報が、教育活動に生かされていると感じる教員 80%以上 	①教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導案件など、個別に対応がなされている。予期しない問題に後手に回ることもあるが、対応は丁寧で徹底的に行われている。 ・出身中学校や保護者、地区行政等との情報共有と予防的指導を充実させていきたい。
伊豆の国特別支援学校と連携した地域支援についての体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆の国特別支援学校との情報連絡会 年2回 ・地区（小・中・高）の特別支援教育の体制づくりに向けた発信 年5回 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校からの進路相談や卒業後の就業促進会義など、必要な時期に十分な情報共有ができた。
福祉教育を窓口とした函南町との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・函南町等、地域との共同活動や情報発信（函南町役場やゲートウェイとの連携）年12回以上 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて保護者や福祉課とも連携をとり、適宜、関係者会議を実施することができた。

エ 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校（チーム）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
必要な情報共有や効率化につながる業務改善の仕組みを「働きがい」につなげる取組	<ul style="list-style-type: none"> ①掲示板の活用等で必要な情報提供を回ったり、共有のために自ら情報収集を回ったりしている教員 80%以上 ①教材等データや業 	①教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板やCOCOOを活用し、印刷や配布、回収、集計の時間や手間が改善した。紛失やタイムラグがないことも良い。 ・サーバーの階層やフォルダが整理され情報が

	務に関わるノウハウを共有することで、業務の改善につながったと感じる教員 80%以上			<p>集まった。データ活用が進んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーバー内の教材庫の活用をしたい。授業案や教材、資料を整理すると学年の縦のつながりもできるのではないか。 ・出席簿と取得単位表とをリンクさせるなど、データ処理システムの改善が進んだ。 ・初任者研修では、教職員がそれぞれの専門知識を生かした研修を企画し、学び合えた。 ・PTA 活動も視野に入れデジタル情報の更なる活用を探る。 ・教材研究や生徒の情報共有に充てる時間の捻出と有効活用を図りたい。
学校経営計画に基づいた予算計画や予算執行を本校事務等と適切に情報共有しながら進める	<p>①本校事務との連携が図れていると感じる教員 80%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校事務からの直接情報提供の場年 6 回以上 	<p>①教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校事務室は、限られた予算の中で分校職員の意向を大切に最大限の対応をしている。 ・校外学習費用やコロナ対策での購入品をはじめ本校事務室とその都度相談をしながら適切な予算執行に努めている。

<愛鷹分校>

ア 命を守る教育により、生徒が安全に安心して学習できる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【防災・防犯・安全】 自ら命を守る意識と行動ができる生徒の育成	・「災害や犯罪から自ら命を守ることができる生徒を育てている」と答える教員 80%	災害や犯罪から自ら命を守ることができる生徒を育てている 100%	B	沼津城北高と防災訓練や安全講話を行い、災害時の動きを確認したり安全に対する意識を高めたりすることができた。 防災に関する授業を年間通して計画的に行うことができた。 在校時だけでなく登下校時の訓練の方法を工夫していきたい。 対面での訓練が実施できていない。 命を守るという視点が防災中心になっている。
	・「緊急時における対応力が向上している」と答える教員 80%	緊急時における対応力が向上している 72.2%		
	・「自分を守る授業を行うことができている」と答える教員 80%	自分を守る授業を行うことができている 94.5%		
	・「学習した内容を理解させることができている」と答える教員 80%	学習した内容を理解させることができている 94.4%		
【道徳教育・人権教育】 道徳教育の充実及び人権を意識した指導	・「道徳の授業を年2回行っている」と答える教員 80%	道徳の授業を年2回行っている 94.4%	A	学年で道徳の授業を検討することで、道徳の押さえについて意識できるようになってきている。 職員研修で不祥事根絶を取り入れ、その都度研修を行えたことは意識を高めるうえでよかった。 道徳を行う教員が一部になってしまったので全員ができるようにしたい。 道徳の授業づくりを学ぶ機会をもちたい。
	・「人権意識が向上している」と答える教職員 85%	人権意識が向上している 100%		
	・「生徒に寄添い、話を聞くことができている」と答える教員 80%	生徒に寄添い、話を聞くことができている 100%		
【生徒指導】 学校や社会のルールを守って、安全に安心して生活することができる生徒の育成	・「校内や社会のルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てている」と答える教員 80%	校内や社会のルールを意識して安全に安心して生活する生徒を育てている 100%	A	問題があったときには、その都度校則などを確認することで納得して学校生活を送ることができている。 教員向けの研修を考えていきたい。

イ 生徒の能力を最大限に伸ばし、個に適した支援及び指導ができる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【授業改善】 「働く人を育てる」ことに着目し、生徒が、主体的・対話的で深い学びができる授業づくりの実践	・「生徒が主体的・対話的で深い学びをする授業の話し合いができている」と答える教員 80%	「生徒が主体的・対話的で深い学びをする授業の話し合いができている」 94.4%	A	職業の授業を研修窓口にすることで、生徒の主体的な姿を考慮できるようになってきた。 授業について話を深める時間がもてない。
【専門性】 キャリア教育の視点に基づいた、知的障害の特性に応じた指導・支援の向上と継承	・「主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てている」と答える教員 90%	主体的に学校生活や実習に取り組む生徒を育てている 94.4%	A	校内での学習だけでなく、次週などでも挨拶や質問など積極的に取り組む姿が多く見られた。 TT間での話し合いで、生徒にわかりやすい授業づくりを進めることができた。 生徒の希望と実態を踏まえた実習先の決め方を、共通理解したい。
	・「障害の特性に応じた指導・支援ができている」と答える教員 80%	障害の特性に応じた指導・支援ができている 94.4%		
【ICT】 ICTを活用し、生徒が主体的に取り組む授業づくりの実践	・「ICT機器を授業で使っている」と答える教員 80%	ICT機器を授業で使っている 83.3%	A	調べ学習を中心に活用が深まっている。 教員の研修が十分でない。
【図書】 読書指導の充実と自ら読書に親しむ活動の推進	・「生徒の図書に親しむ機会が増えている」と答える教員 80%	生徒の図書に親しむ機会が増えている 94.4%	A	研究指定を受けたことで、図書コーナーの充実、読書週間の実施など生徒が本に親しむ環境づくりはできてきている。 教室にも書棚をおいたが、冊数は十分でない。保管場所、購入計画を考えていく必要がある。
	・「図書を利用した活動を行うことができている」と答える教員 80%	図書を利用した活動を行うことができている 100%		

ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携を深め、共生社会の実現を目指す学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【共生・共育】 沼津城北高等学校との交流活動の充実	・「生徒が主体的に交流できる活動の機会を持つことができている」と答える教員 80%	生徒が主体的に交流できる活動の機会を持つことができている 83.3%	A	松濤祭を一緒にできたことは、今年度大きな成果となった。 サッカー部はアスルクラロ沼津の選手を迎えて合同練習を行えた。 城北高校の理科教員が、出前授業として3学期に1時間各学年で授業を行う。 交流活動はまだ充実されているとは言えない。
	・「沼津城北高等学校と一緒にを行う行事や部活動等を計画している」と答える教員 80%	沼津城北高等学校と一緒にを行う行事や部活動等を計画している 83.3%		
【センター的機能・理解啓発】 地域や学区の中学校、関係機関等との連携を図り、特別支援教育の理解啓発の推進	・「支援や指導について、地域の学校や関係機関と連携が取れている」と答える教員 80%	支援や指導について、地域の学校や関係機関と連携が取れている 83.3%	A	オープンスクールを実施して、中学生の理解を深めることができた。 幼稚園交流は短時間であるが実施することができた。 各学年の交流で高齢者施設や同年齢交流を行うことが難しかった。 生徒がホームページを作る機会も増え、学校の様子を発信できている。
	・「近隣施設等との交流活動を計画している」と答える教員 80%	近隣施設等との交流活動を計画している 100%		
	・ホームページの更新 (月2回以上)	・ホームページの更新 (月2回以上) 100%		

エ 教職員のチーム意識を大切にし、効率よく迅速に業務を遂行できる学校

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果・課題
【マネジメント力の育成】 計画的、効率的な業務遂行力の向上	・「会議の効率化を意識できている」と答える教員 80%	会議の効率化を意識できている 100%	A	会議の持ち方を工夫したことで、効率的になった。 サーバーが、担当者以外にも見やすくする必要がある。 情報共有の方法を考えていく必要がある。
	・「従来の業務を見直し、精選、合理化を図れている」と答える教員 80%	従来の業務を見直し、精選、合理化を図れている 88.9%		

	・「支援方法の知識が深まり、指導力が向上している」と答える教員 80%	支援方法の知識が深まり、指導力が向上している 83.3%		
【本校との連携】 学校運営に関わる事務手続き、予算の計画的な執行等、本校事務との連携の強化	・「本校事務職員と連携して、事務手続きや予算執行ができています」と答える職員 85%	本校事務職員と連携して、事務手続きや予算執行ができています 94.4%	A	予算執行については、ほぼできたと思われる。 連携するためにどのようなことを押さえていくかが十分でなかった。

4 監査対象期間における特色ある取組

<本校>

年度	取組概要	成果及び課題
令和4年度	「学年を超えた集団での活動」(小学部) ・小学部集会(複学年での活動) ・クラブ活動(4・5・6年の縦割り活動)	「学年を超えた集団での活動」(小学部) ・小学部集会(複学年での活動)として、全学年で「1年生となかよくなる会」「6年生ありがとうの会」を開催するほか、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生の組み合わせで年間2回の学部集会を行っている。 ・クラブ活動(4・5・6年の縦割り活動)では、毎週火曜日の午後に、散歩、スポーツ、音楽・ダンス、図工、レクリエーション、読書・読み聞かせの6つのクラブに分かれて活動している。

	<p>「交流及び共同学習」（小学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校間交流（年2回） ・ 居住地域における交流（希望者） 	<p>沼津市立原東小学校との学校間交流は、小学部の6年間継続して実施している。6年間の見通しの中で児童同士の関わりや活動内容が段階的に積み上げられるよう、各学年の押さえを明らかにして取り組んでいる。今年度は対面での交流を学年2回行い、それぞれ友達と関わりを持つことができた。毎年交流を行うことで児童同士がお互いの個性やそれぞれの存在の大切さを感じる交流となっている。来年度も様子を見ながら対面での交流を学年ごと年2回の実施を予定している。</p> <p>居住地域における交流は、交流籍を活用したことから希望者が増えている。特別支援学校とは違った集団の中での経験は、児童にとって新鮮で楽しい活動となることが多い。4年度は1人1回、相手校の受け入れ状況を確認しながら行った。児童も保護者も教員も実施することの良さを感じている。しかし、感染状況によって予定していた交流の中止も多かった。また、相手校によっては本校の児童の理解ができず、イメージを持ってないまま当日を迎えることもあった。本校児童を知ってもらう働き掛けも必要である。</p>
	<p>進路懇談会（小学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年別懇談会 	<p>6年間の計画の中で、保護者への進路指導を進めている。2年生は、高学年までの見通しを持つように3～6年生の見学と3年生からの生活について小学部主事から伝えた。3～5年生は、高等部卒業生の進路先と生活、進路決定までの流れについて進路指導課長から伝えた。4年生は、高等部の見学と高等部の生活について高等部主事が説明した。6年生はすぐ間近に迫った中学部の見学と中学部の生活について中学部主事から話を聞く機会を設けている。1年生から6年生までの保護者は、これまで経験や知識に大きな差があるため、その時の保護者の状況、ニーズに応じた進路指導や情報提供に留意している。先輩保護者から小・中・高等部の違いや卒業までの保護者の思いを直接聞く保護者の勉強会を計画したが、5年度に延期となった。</p>

<p>「地域を活用した学習」(中学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛鷹広域公園の花壇作り(年3回) ・原地区センターの花壇作り(年3回) ・福祉施設への空き缶の搬入(エコ美化委員会)(年3回) 	<p>花壇を広域公園に作ったり、作業製品を校内のいろいろな場所で使ってもらえたりすることで達成感を感じ、生徒の意欲を高めることができた。</p> <p>園芸班生徒が、作業学習の時間に、原東部自治会の方と、原地区センターの花壇作りを一緒に行うことで達成感を得て意欲を高めることができた。</p> <p>ホームページでも複数回発信し、生徒の学びを発信する機会をさらに増やしていきたい。</p> <p>委員会活動で潰した空き缶を、徒歩で行ける福祉施設に搬入している。毎回、先方の職員から感謝の声を掛けていただくことが、生徒たちの自己有用感につながっている。</p>
<p>「交流」(中学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園交流(年1回) 	<p>例年、直接交流を行っているが、新型コロナウイルス感染防止のため、間接交流となった。</p> <p>幼児が楽しめるものを考え、手作りおもちゃを製作した。園児からお礼の手紙をもらい、喜んでもらったことで、生徒たちの自信につながった。</p>
<p>「作業学習」(高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品開発の工夫と売り上げ意識の向上 	<p>授業を単元化することで、目的意識をもって製品作りに取り組むことができている。個に応じた活動を設定しながら、製品の更なる質の向上や新製品の開発、売れ筋商品の分析等に取り組んでいる。</p>
<p>「地域で生きる作業学習」(高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バザーでの作業製品販売 ・協力店舗への納品 ・地域を意識した活動の創造 	<p>コロナ禍の中、地域での販売機会は大幅に減ってしまったが、協力店舗(洋菓子店、茶屋、喫茶店)への納品、地域の方に向けた野菜の販売、近隣の商業施設での販売を行った。納品や販売経験を重ねることで、目的意識をもって製品作りに取り組むことができている。</p> <p>地域のスーパーに使用済みの牛乳パックを納品しエコ活動に取り組んでいる作業班や、原団地内施設の清掃に取り組んでいる作業班もある。</p>
<p>「生徒指導」(高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の指導 登下校時の指導を定期的実施し、安全教育の充実を図った。 ・情報モラル指導 携帯電話の使用時間、インターネット 	<p>生徒の実態が様々で、電車・バス等の乗車マナーでの課題があり、多様化している。今後も学期始めや年度途中でのマナー指導、乗車指導等を継続していく必要がある。</p> <p>携帯電話を持つ生徒の増加に伴い、インターネット、SNSの利用も増えている。SNSの利</p>

	<p>やSNSの使用方法の指導を行った。</p>	<p>用について課題があり、トラブルに巻き込まれることも考えられ、生徒が情報モラルについて学び、節度ある利用ができるよう、外部講師を呼んで授業を行った。引き続き指導を行っていく必要がある。</p>
	<p>「心の相談室 ポストの設置」(高等部)</p> <p>「リラックス教室の定期開催」(高等部)</p>	<p>保健室前にポストを設置し、生徒が悩みを打ち明けやすい環境作りに努めた。今後も、障害認知を深め、組織として生徒指導に対応できるように計画的に実施していきたい。</p> <p>休み時間にゆったりした音楽を聴いたり、アロマの匂いをかいだりしてリラックスできるように、定期的に希望者を募りリラックス教室を開いた。ストレスを抱えている生徒が増えているため、今後も継続して実施していきたい。</p>
	<p>「交流及び共同学習」(高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣高等学校 高1・高3 年1回 ・保育園児との交流 高2 年2回 	<p>高等部1年生は飛龍高校と部活動交流を行った。高等部3年生は、沼津工業高校にて体験授業を受けた。各高校の生徒が優しく丁寧に接してくれたため、本校の生徒も安心して体験・交流をすることができた。</p> <p>高等部2年生はあしたか保育園の園児と交流を行った。会の計画、準備、運営を生徒が行っている。1回目は保育園に行き、2回目は園児を本校に招いている。</p>
	<p>「進路指導」(高等部)</p> <p>高等部の進路指導で生徒の希望に沿った進路指導を行った。また、保護者への啓発活動の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高1 職場体験(2日間) ・高2 入所施設見学 職場実習(年2回) ・高3 ハローワーク見学 就労セミナー 職場実習(年2回) ・全学年 ビジネスマナー講座 ・保護者向け進路懇談会 各学年2回 	<p>高等部では本人の希望に沿った進路実現100%を目標として進路指導を行っている。</p> <p>就労希望者、福祉事業所利用希望者共に、実習を重ねる中で、ほぼ希望に沿った進路に進むことができた。福祉事業所(特に生活介護事業)の定員の関係や生徒の特性(強度行動障害、てんかん、他害など)で、進路決定が難航するケースがあるため、市町福祉担当課や福祉事業所との連携を重視している。</p>

年度	取組概要	成果及び課題
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育をテーマとした総合的な探求の時間における、生徒の思考活動を促す授業実践への取組。 ・研修助言者の招聘、防災専門家の防災講座による職員研修及び、年間を通し防災教育の授業を位置づけ、体験活動を取り入れた授業実践 	<p>職員の研修の取組により、生徒の「地域での生活に生きる力」につながる資質・能力の育成に向けた授業改善が進んだ。また、生徒、教員の防災意識の高まりにつながった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、できる範囲の地域とのつながりを深め、地域を活動場所としての作業学習の実践 	<p>木工、園芸、工芸、清掃の4種の作業班で地域との関わりを意識した取組を展開した。</p> <p>木工班で、近隣の小売店や会社からの依頼で手掛ける看板の製作等の経験、清掃班で地域の公民館、函南小学校、三島南高等学校等の清掃への取組を継続していること、陶芸班が、近隣の物産販売所での販売目的で取り組んでいること、園芸班が野菜販売に取り組んでいること等、実際の活動を通して学ぶ経験を繰り返していく中で、働く意味を学び、生徒の働く意義の意識化につながってきている。地域の人とのかかわりを通じた体験が、生徒たちの働く喜びになり、次の意欲につながっている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いを認め合い、授業の実際を体験し合う田方農業高校との行事、授業交流、生徒会活動の充実 	<p>交流開始前に、本校教員が田方農業の生徒に向けて障害理解のガイダンスを行うことで、正しい知識の理解が促され、生徒同士の良い関わりにつながった。</p> <p>行事交流（体育祭、田農祭における交流等）5回、田農ライフデザイン科セラピーコースとの共同授業10回、他学科との交流授業5回、3年生との体育での授業（サッカー）交流3回など年間で23回の交流を実施した。</p> <p>特に、田農祭では、生徒会活動でのかかわりが、作り上げる喜びを感じる機会になった。話し合いや看板の作成等、生徒集会で分校の生徒が司会を行う機会も得た。コロナ禍で例年より活動を共にする場面が減少したが、できた活動の中では、生徒の良い刺激となり、自然な会話や関わりなどの共生・共育が行われた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・田方圏域におけるセンター的役割の取組 	<p>圏域の教育委員会を通して、本校ができる地域支援について示すことで、保護者や職員からの教育相談につなげた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いた専門的な知識や社会生活に生きる知識を学ぶ授業や講座の実施 	<p>授業支援では、ビルメンテナンスやビジネスマナー講習を実施した。各分野における生徒のスキルアップにつながった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・職場実習、進路指導の充実 	<p>職場開拓員と連携を密にしながら生徒一人一人の特性や希望に応じた実習先の選択を行っている。職場実習終了後には学年ごと丁寧に振り返りを実施したり、上級生の報告会に下級生が参加して成果と課題を共有したりすることで、3年間を通した職場実習を柱にした取り組みにつながっている。</p>

<愛鷹分校>

年度	取組概要	成果及び課題
令和4年度	<p>○防災教育の推進により、生徒の自助力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理局の職員を招聘し、生徒及び職員の防災研修を行った。 ・地域の地区センターの方からの防災講話や防災倉庫見学（1年生）や、高校との合同訓練を行った。 	<p>防災学習を年間を通して行い、防災持の対応について繰り返し学んだ。自主的に自信を守るための知識や行動が身につけてきている。自助力の育成を図ることができた。</p> <p>1年生は、地域の方の協力を得てのフィールドワーク、2年生は静岡県防災センターでの学習を行い、防災学習の積み重ねができた。外部講師の活用を積極的に行い、東部危機管理局の危機担当による講話や、沼津高専の講座により生徒が主体的に防災学習に取り組む姿が見られた。</p> <p>課題として、3年生での防災学習の取り組み内容の再検討や、居住地で活動できるようにする防災学習を考えていく必要がある。</p>

<p>○地域とのつながりを大切にした作業学習の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布工房（縫製作業） ・緑工房（農作業） ・ワーク地域（地域事業所での学習） 	<p>作業学習（布工房、緑工房）での製品を定期的に地域の店舗や幼稚園などで販売を行っている。受注製品を責任もって丁寧に製作することや、地域の人に買ってもらうために栽培の種類や時期などを計画するなど、生徒が自分たちで話し合いを進めることができてきた。</p> <p>ワーク地域では、各学年週に一日地域での製造業、サービス業、介護施設等の事業所で事業所の方と働く経験を積み重ねている。働くための目的や、必要な力を身に付けることを意識して取り組むことができた。ほぼ終日の作業になるため、体調管理にも十分注意していきたい。</p>
<p>○作業学習で自分の活動や取り組み状況を振り返ることや進路を見通した適正や希望を考える機会の設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習での日誌，ワークシート（振り返りシート）の効果的な活用 	<p>毎回の作業学習において、作業日誌を活用し、目標設定や取り組みに対する自己評価を行っている。生徒自身が主体的に取り組む中で「働く基本姿勢」を身に付けたり「適性」を考えたりするきっかけとなっている。</p> <p>課題として、職場実習で明らかになった個々の課題を日々の作業学習へフィードバックしていく必要がある。</p>
<p>○主体的，対話的，深い学びに向かうための授業づくりの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業の研究授業を通して、「働く人を育てる職業教育」をテーマに，自ら進んで進路選択ができる生徒の育成を目指して研修した。 	<p>職業における資質・能力を生徒の学びの姿として捉えて考え、3年間の学びの系統性が見えてきた。また、職業の授業で4つの視点を取り入れながら授業を実践してきた。</p> <p>課題として、生徒が「やった」「できた」と達成感を感じられる支援や働きかけを明確にしていくこと、各教科や作業学習の関連を図り、愛鷹が目指す「働くために必要な力」を意識して、一貫した指導を行っていくことが必要であると考えている。</p>
<p>○共生・共育の推進と，生徒が経験を広め社会性の育成を図り，社会参加するための学習の設定</p> <p><沼津城北高等学校との交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションでの学校紹介 	<p>隣接する県立沼津城北高校と校内発表という形で文化祭、体育祭を行うことができた。また、新入生オリエンテーションにおいて部主事が分校の学校紹介をする時間を設定してもらい、城北高校生徒の理解啓発に努めることができた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・行事・講座への参加，高校の教員による出前授業 <p><地域交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生と近隣の光長寺幼稚園との交流 	<p>サッカー部との交流は、感染状況を踏まえながら行うことができた。文化部との交流はまだ取り組めていないので、方法を工夫しながら行っていきたい。</p> <p>1年生の幼稚園との交流では、サツマイモのつるさし、収穫を園児たちと共に行ったり、遊び方を説明する動画を作成し、園児に見てもらった交流を行うことができた。今後は、交流先、交流方法を検討しながら交流を行い、地域で認められる分校生を目指していきたい。</p>
	<p>○職場実習，進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労促進支援員や関係機関との連携 	<p>就労促進支援員と連携を密にして、生徒の希望や特性に応じた進路先や職場実習先について、本人・保護者へ提案している。職場実習では、生徒が自分の持っている能力を十分に出せるよう実習先と連携を密に取るようにしてきた。生徒自身が働く事についての課題や自分の良いところを見つけることができた。職場実習を通して、保護者と教員が積極的にかかわり、働く生活に向けて生徒への適切な支援を考えることができた。</p>

(1) 異動状況

<本校>

区分	本務職員								
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	事務職員	栄養教諭	計A
転出者			1		25		2		28
退職者					4				4
転入者			1		21		1		23
新任者					4		1		5
差引増減	0	0	0	0	△4	0	0	0	△4

区分	臨時・非常勤職員					合計 A+B
	教諭 (任)	教諭 (臨)	栄養士 (臨)	会計年度 任用職員	計 B	
転出者	6	5			11	39
退職者	1	1		1	3	7
転入者	7	1			8	31
新任者	2	3		2	7	12
差引増減	2	△2	0	1	1	△3

<伊豆田方分校>

区分	本務職員							
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	事務職員	計A
転出者					3		1	4
退職者					1			1
転入者					3		1	4
新任者								
差引増減	0	0	0	0	△1	0	0	△1

区分	臨時・非常勤職員				合計 A+B
	教諭 (任)	教諭 (臨)	会計年度 任用職員	計 B	
転出者	1			1	5
退職者				0	1
転入者				0	4
新任者		1		1	1
差引増減	△1	1	0	0	△1

<愛鷹分校>

区分	本務職員

	校 長	副校長	教 頭	事務長	教 諭	養護 教諭	事務 職員	計 A
転出者					4		1	5
退職者								0
転入者					2		1	3
新任者								0
差引増減	0	0	0	0	△2			△2

区分	臨時・非常勤職員				合 計 A + B
	教諭 (任)	教諭 (臨)	会計年度 任用職員	計 B	
転出者	2			2	7
退職者					0
転入者		1		1	4
新任者					0
差引増減	△2	1	0	△1	△3

(2) 現員数

<本校>

区分	本務職員								
	校 長	副校長	教 頭	事務長	教 諭	養護 教諭	栄養 教諭	事務 職員	計 A
男		1	1	1	30			2	35
女	1				66	2	1	1	71
計	1	1	1	1	96	2	1	3	106

区分	臨時・非常勤職員					合 計 A + B
	教諭 (任)	教諭 (臨)	栄養士 (臨)	会計年度 任用職員	計 B	
男		2		6	8	43
女	16	3	1	12	32	103
計	16	5	1	18	40	146

<伊豆田方分校>

区分	本務職員

	校 長	副校長	教 頭	事務長	教 諭	養護 教諭	事務 職員	計 A
男			1		8			9
女					8	1	1	10
計	0	0	1	0	16	1	1	19

区分	臨時・非常勤職員				合 計 A + B
	教諭 (任)	教諭 (臨)	会計年度 任用職員	計 B	
男					9
女		2	1	3	13
計	0	2	1	3	22

<愛鷹分校>

区分	本務職員							
	校 長	副校長	教 頭	事務長	教 諭	養護 教諭	事務 職員	計 A
男					8			8
女		1			8	1	1	11
計	0	1	0	0	16	1	1	19

区分	臨時・非常勤職員				合 計 A + B
	教諭 (任)	教諭 (臨)	会計年度 任用職員	計 B	
男					8
女		1	1	2	13
計	0	1	1	2	21

(3) 健康管理について

<本校>

【令和4年度】

ア 健康管理の推進

教職員健康診断は、婦人科検診を含め対象者全員が受診した。また、継続治療や経過観察となっている教職員の受診状況等の把握に努めた。コロナ感染防止対策や服務上の制度、留意点等を資料により情報提供し、勤務環境の改善に取り組んだ。4年度は、女性職員休養室を使いやすく環境整備した。教職員からの健康相談については、産業医に相談し、受診を促す等により改善方向に向けることができた。教職員へのメンタルヘルスに関する意識啓発のため、職員衛生委員会だより「エプロン」を年間で10回発行した。教職員一人一人が心身の健康を主体的に捉え、日常生活においても適切な食生活や運動を意識した生活ができるように支援を行った。

<伊豆田方分校>

【令和4年度】

ア 健康管理の推進

教職員健康診断後は、再検査を通知された者への再受診を促し、継続治療の必要がある者、経過観察の指示が出ている者に対しては状況の確認を定期的に行った。また、健康管理やワークライフバランスについて日常的に呼びかけ、心身の健康を自己管理することの大切さも呼び掛けた。今後も教職員一人一人が自身の健康をまず第一に考え、職務に当たれるような支援を継続する。

イ 腰痛予防対策

腰痛健康診断では、各自の自覚症状について問診を行った結果、医療機関等への受診者はいなかった。

<愛鷹分校>

【令和4年度】

ア 健康管理の推進

教職員健康診断は、全職員が受診し、再検査を通知された者も全員受診することができた。

教職員へのメンタルヘルスでは、教育厚生課から出ている「ストレスカウンセリング通信」を活用し、分校の掲示板に再度掲載したり、学校職員衛生委員会だよりを年3回発行したりして、心の持ち方や、相談機関の紹介を行った。

また、新型コロナウイルス感染症対策について産業医と連携を取り、教職員の心身の健康が保てるよう、日常的な声かけと日々の健康観察の重要性を呼びかけるとともに、職務上の制度や留意点を周知した。今後も心身の健康を保ち、職務に当たれるよう支援していく。

(4) 教職員の研修について

<本校>

特別支援学校教職員としての専門性を深めるために、研修・研究活動の充実を図り、その成果を日常の教育活動に生かすように努めている。

研修テーマ「自立と輝きを育てる授業づくり～子どもが学びの価値や成長を実感できることを目指して～」の3年目に当たり、公開授業研究会を開催し、外部参加者を交えて、各学年の取組や授業づくりについて協議を行い、研修収録へのまとめを行った。

ア 各学部の研修テーマ

【小学部】「子どもが考え、自分から動き出す授業づくり～子どもの思いや考えを大切に～」

【中学部】「働く意欲を引き出す授業づくり～学習する子どもの視点に立って～」

【高等部】「社会自立を目指した授業づくり～かかわりの中で共に見つける学びの変化～」

イ 研修内容

令和4年度は、令和3年度までの研修内容を継承しつつ、研修の成果と課題を踏まえて、学習過程全体を通して児童生徒の成長を教師が見取って評価するとともに、児童生徒が学びの価値や自分自身の成長を実感することで、主体的に学習に取り組む意欲を高め、一人一人の自立と輝きを最大限に伸ばすことのできる教育実践を展開することを目指した。そこで、研修では、以下の3点を全校共通の取組内容として設定し、授業実践を通して研修の内容や方法の在り方について、学部研修で検討していく。最終的に、各学部の成果と課題を共有し、研修の仮説の検証を行う。

また、研修の成果について、1月に授業実践報告会を行い、学年や作業班で研修として取り組んできたことを発表し、校内で共有を図った。

取組内容1 学習の中で児童生徒に身に付けたい資質・能力を明確化し、その資質・能力が身に付けられるようにするとともに、児童生徒自身が学びの価値や成長を実感できるための単元計画や年間指導計画を立てること

取組内容2 単元における児童生徒の思いや考え、主体的に学習に取り組む姿等を見取り、それを次時以降の学習改善、指導改善に反映できるような体制を整えること

取組内容3 単元終了後の学習状況評価や指導評価を次単元以降に活用し、年間を通じて目標や児童生徒への支援の妥当性を高められるようにするための仕組みを考えること

小学部は各学年、中学部・高等部は各作業班で、事例児童生徒を一人以上決め、事例児童生徒の指導の検討を中心にしながら研修の取組を進めた。研修の取組に適切な助言が得られるよう、各学部1名ずつ他校から助言者を招聘し、授業参観と指導助言を通して学部研修や研修に基づく授業づくりの充実を図った。

校内研修のほか、職員の専門性向上のため、外部講師に依頼し以下の学習会を行った。

月 日	学習会のテーマ	講 師
5月11日 5月23日 7月28日	「救命法講習会」（心肺蘇生法、AED使用）	駿東伊豆救急ワークステーション
8月3日	「発達障害のある子どもへのICTの活用による支援」（自立活動課主管）	長野県長野養護学校教諭、 県特別支援学校 ICT 活用 推進リーダー 青木 高光 氏
8月5日	「防災講話（職員向け）」 （防災防犯課主管）	静岡県東部地域局 危機管理課
12月8日	「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びとは」（研修課主管）	山梨大学大学院准教授 吉井 勘人 氏

校外の研修については、特別支援教育課及び県総合教育センターの主催する各種研修会のほか、県特別支援学校（知的障害）研究協議会、県内の各学校の研究大会に参加（オンラインを含む）し、教員の資質向上を図った。帰校後、内容を学部等で報告し、研修の成果を教員間で共有するようにした。

ウ 成 果

令和4年度の成果として、児童生徒の思いや考えを見取るとともに、見取りに基づいた指導改善を行うこと、学んだことの成果や成長を児童生徒の実感につなげていくことにより、「児童が活動に興味を示すための支援をしたことで、動物に興味をもって、自分から関わることができた」「生徒の視点に立って内面を推察することで、本人の思考に沿った支援を考えることができ、作業の正確性を高めることができた」など、研修の取組が、児童生徒の資質・能力の向上につながっていたとする実践が数多く成立した。また、教師一人一人の指導に対する専門性向上にも、成果を見出すことができた。

エ 課 題

見取りを指導改善に生かすことの意義は、どの教師も感じているが、いかに効果的かつ効果的に個の実態把握や学習評価の蓄積を行っていくか、今後さらに追究する必要がある。また、研修の取組を日常の教育活動に生かすためには、研修の方法を一人一人の教師が理解した上で実践する必要がある。そのために、研修の取組を定着させ、取組事例を蓄積していく中で、よりよい授業実践のための方法を職員自らが気付き、探究を深めていくことができる研修を目指したい。

<伊豆田方分校>

ア 研修テーマについて

「考える力を高め合う授業づくり～防災学習の実践を通して～」

令和元年度の生徒アンケートでは、「災害時に自分がどのように行動したら良いのか分からない」という意見が多かった。生徒は自立通学をしており、ある程度自立した生活を送っている実態から、災害時にどのように行動すれば良いのか、生徒自身で判断して行動できる力は必要であると考え。また災害への漠然とした不安感や恐怖心を持ち続けるのではなく、生徒自身がどう行動するかを考える場をもったり、シミュレーションしたり、具体的に想定したりする体験を通して、災害への備えや見通しが行動への自信につながると考える。必然的に考える場を繰り返しもつことで、自分なりの考えを

もち、伝え合い、さらに主体的に考えるという姿勢は「生きる力」につながる資質・能力であると考えた。

学校教育目標 「共に育てる自立と輝き」 (目指す生徒像)

- 自ら考え、自ら選び、自ら行動する生徒
- 自分の良さに気づき、表現しようとする生徒
- 人とつながり、共に学び合う生徒
- 自分もまわりも大切に作る生徒
- 将来のなりたい姿を思い描き、挑戦や努力をしようとする生徒



校内研修テーマ

「考える力を高めあう授業づくり～防災学習の実践を通して～」

窓口：総合的な探究の時間（防災教育）

1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年での授業実践、実態把握、年間計画、単元計画、単元構成の検討 ・研究授業（単元カードと授業カード）
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目の授業実践を基に、単元構想の検討→3年間指導計画立案 ・研究授業（細案）
3年目 (R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施 ・まとめ

イ 研修内容及び成果

(ア) 授業研究協議会の実施

各学年、毎週1コマの総合的な探究の時間に防災教育を位置づけ授業実践を行った。
7月と12月に助言者を招聘した授業研究協議会を行った。

【助言者：静岡県総合教育センター 専門支援部特別支援課 小滝剛司 特任教官】

	単元名	活動内容
7月の 実践	1年：「もしも」のために「いつも」の備え 2年：「命を守る5か条～地震だ！安全を確保せよ！～」 3年：「みんなで作る〇〇チャンネル ～正しい防災知識を視聴者に伝えよう～」	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食の適正とその準備 ・地震時の危険予知 ・伊豆ゲートウェイ函南の防災設備
12月の 実践	1年：「線状降水発生！ ～命をつなぐ、72時間～」 2年：「備えあれば憂いなし ～非常用持ち出し袋に何入れる？～」 3年：「危険地帯を調査せよ！ ～生活地域の安全を考えよう～」	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフライン断絶時の代替手段を考える ・非常用持ち出し袋の内容や必要性について考える ・居住地からの避難場所や経路について考える

指導 ・ 助言等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業作りにおいては、生徒が試行錯誤する時間が大切。 ・教師と生徒とで、授業を通して何ができるようになったかを共有することが大事。 ・教師は生徒に、各々の気付きや理由など、学びが深まるような質問をしたい。 ・教師は生徒の、表情や視線、つぶやきや動きを観察し、なぜそうしたのかを考えたい。
----------------	--

(イ) 成果

- ・3年間の活動計画をもとに、学年ごとに単元を設定し、生徒の思考を高めるための効果的な単元の順序やつながりを意識した授業づくりに取り組むことができた。
- ・授業カードの中に「予想されるあらわれ」の項目を設けたことは、発問に対する生徒の反応を予想し、授業展開を考える上で有効であった。
- ・単元で引き出したい生徒の姿をイメージし、授業の流れや考える場面を設定することで、どのような手立てや支援が必要なのかを、具体的に考えることができるようになった。
- ・考える力を高めるための指標として作成した、伊豆田方分校のオリジナルモデルを生かすことができた。自分の考えを表出できるところから人の意見を取り入れられるところ、最終的には話し合いの深まりにまで発展した姿も見られるようになった。

ウ 課題

- ・単元目標に対して、どのように評価していくのかという評価規準を適切に設定することは少し難しかった。生徒の様子を見取る教師の力の向上と、授業実践を積み重ねる必要があると考える。

<愛鷹分校>

ア 研修テーマ「働く人を育てる職業教育～自ら進んで進路選択ができる生徒を目指す授業づくり～」

令和3年度の研修で、『働く人を育てる職業教育～自ら進んで進路選択ができる生徒を目指して～』をテーマに、職業を窓口に進めてきた。

昨年度の成果として、生徒の学びの姿を追う中で、学習内容の精選や単元の適切な時期・期間等、年間指導計画を見直すことができた。また、教師が生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すための授業づくりでは、4つの視点（解決したい課題や問い、考えるための材料、対話と思考、学習の成果）を授業展開に取り入れることを意識することができた。

そこで今年度は引き続き職業を窓口研修を進めていく。前年度の課題に取り組みながら、授業づくり（=Plan）に重点を置き、日々の実践を重ねていきたいと考える。授業づくりにおいて、生徒の実態を把握し、思考やニーズに沿って授業を考え、生徒自身が物事をどれだけ自分事として捉えるかが大切になってくる。

そこで単元構想シートを改良し、単元の意義（なぜこの単元を行うのか、どんな力を身につけさせたいのか、生徒の目指す姿）や根拠を明確にし、学年間で共通理解をする。また、育成すべき資質・能力を具体化して教員が共通理解をし、授業づくりにおいて着目する3観点を決めて整理していきたい。そして、昨年度の成果でもある、年間指導計画の単元とのつながりや生徒の学びの姿を含め、系統性のある年間指導計画になっているか確認もしていきたい。

イ 研究の内容・方法

○本校の目指す生徒像の具体化

- ・単元構想シートに育てたい資質・能力や単元の意義を書きこむことで、単元で目指したい生徒の姿を具体化し授業づくりに取り組む。
- ・具体化された生徒の姿から、愛鷹分校の職業における資質・能力を整理する。及び3年間の学びの系統性を検討する。

○「主体的・対話的で深い学び」の姿を引き出すための授業づくり

- ・授業カードを活用し、主体的・対話的で深い学びの4つの視点を学習内容に入れた授業カードを用い、学年やTT間で共通理解をしながら授業検討に取り組んでいく。また、学習内容や必要な支援を整理して授業改善に取り組む。

ウ 成果と課題

- ・成果：①愛鷹分校の職業における資質・能力を生徒の学びの姿として捉えて考え、3年間の学びの系統性も見えてきた。
②職業の授業において、4つの視点を取り入れながら授業を実践した。
- ・課題：①生徒が「やった」「できた」と達成感を感じられる支援や働きかけについて。
(生徒自身が言語化し、知識をつなげたり定着させたりする。)
②職業だけでなく、各教科や作業学習の関連を図りながら、教科として身につけなければならない力を考えていく中で、愛鷹が目指す「働くために必要な力」を身に付けていくことも意識し、一貫した指導を目指す。

6 防災対策について

<本校>

児童生徒が安全に安心して学校生活を送れるよう、防災防犯体制を整え、児童生徒の発達段階に応じた防災教育を行った。

また、児童生徒の在校時における南海トラフ地震に関連する情報（臨時）の発表や地震・津波を想定した訓練を3回、火災の発生に備えての訓練を2回、年計5回の避難訓練とスクールバス避難訓練を3回実施した。その他、教職員対象の大地震発生時シミュレーション訓練（緊急メール配信訓練含む）と消火訓練を各1回、保護者対象の災害伝言ダイヤル171訓練を2回、緊急体制訓練を学部ごとに1回実施した。外部講師を招聘し、防災講話、AED心肺蘇生法講座を実施した。不審者対応訓練は、外部講師を招聘せず、動画を使用して教職員のみで実施した。

(1) 避難訓練・不審者対応訓練

月 日	訓 練 名	主 な 内 容
4月27日	第1回火災避難訓練	調理室から出火を想定した避難訓練。 コロナウイルスの影響で休校となったため、職員のみで火災時の対応と避難経路を確認。
5月11日 9月7日 1月12日	スクールバス避難訓練	スクールバス乗車時の地震発生への対応(児童生徒の身の守り方、介助員と運転手の動き等)を確認。登校便2回及び下校便1回実施。
5月25日	第1回地震避難訓練	地震の後、津波警報が発令されたことを想定しての訓練。各学部とも、各教室で初期避難

		行動。コロナ対策として、全体の避難場所である3階への垂直避難は行わず、トランシーバーを使った点呼、報告を実施。
6月15日	<教職員・保護者対象> 大地震発生時シミュレーション訓練	各係に分かれ、簡易トイレの設置、発電機の動作確認、物資運搬搬出等を実施。 保護者にコクー(COCOO)メール配信、開封確認。保護者は運動場での引き渡しを想定。
7月22日 12月23日	<教職員対象> 消火訓練・通報訓練	<教職員> 水消火器を使った消火訓練を実施。 その他、消火栓の使い方、防火扉の開閉、消防署への通報の仕方を確認。
8月5日	防災講話	<教職員> 東部地域局危機管理課から講師を招聘し、防災講話を行った。
8月30日	総合防災訓練(第2回地震避難訓練、非常食試食会)	大規模地震災害発生を想定した地震避難訓練、寝袋体験、映像による防災学習、非常食試食会を実施。
9月22日	第2回火災避難訓練	給食室からの出火を想定した避難訓練を実施。消防署と連携しての通報訓練、消防車見学、消火訓練。煙体験は中止した。
9月27日	起震車体験(高等部2年)	起震車で小規模から大規模の地震の揺れを体験。高等部主催。防災課はサポート。
11月15日	<保護者対象> 災害伝言ダイヤル171訓練	大規模な地震が発生したときを想定し、災害伝言ダイヤルで児童生徒の安否と学校周辺の被害情報を保護者に伝える訓練を実施。
11月16日	<教職員対象> 不審者対応訓練	不審者侵入時の組織的な対応(不審者対応、児童生徒の安全確保、校内放送、警察への連絡)を確認するシミュレーション訓練を実施。
2月15日	第3回地震避難訓練	児童生徒に予告なしの抜き打ち訓練を実施。密を避けるため全体では集まらず、各活動場所で初期避難行動をとる。トランシーバーを使った点呼、報告。その他、地震による火災発生を想定し、消火器の設置場所や使い方を確認する消火訓練を行う。

(2) 施設・設備の整備、保守、保安

ア 消防計画・電気工作物・自動ドアは、専門業者に委託して定期的に保守点検を実施した。

イ 月1回の安全点検、半年に1回の安全総合点検を実施し、児童生徒が安全に活動で

きるように努めた。

(3) 学校警備

退庁時の戸締り、火気点検を徹底し、夜間は警備会社の機械警備により継続した警備体制を図り、災害事故発生防止に努めた。

<伊豆田方分校>

田方農業高校との合同訓練1回、同日訓練1回、分校独自の訓練を2回行った。毎週1コマの総合的な探求の時間を各学年の防災教育の取組にあて、災害で想定される状況等の知識を学ぶだけでなく、暗闇体験、災害時を想定した生活の工夫の考案、非常食試食、防災対策用品等防災リュックの内容のコーディネート、等の具体的で体験的な活動を取り入れた授業実践を行った。また、防災局職員を招いての防災講座では、災害時にどう判断して自身が行動するかシミュレーションし、縦割りグループで意見交換する事を通して、より具体的に考える機会を得た。教員、生徒ともに防災意識を高めることにつなげることができた。

(1) 避難・防災訓練

月 日	訓 練 名	主 な 内 容
5月24日	第1回避難訓練 (避難経路確認)	地震発生時、また火災が発生したときの避難経路確認
8月4日	防災講座	危機管理局職員からの講話と災害時判断ゲームのグループ活動 等
9月7日	第2回防災訓練 (地震想定)	地震発生時の避難誘導訓練 田方農業高校との非常時での連携確認
12月20日	第3回合同防災訓練 (火災訓練)	火災発生時の田方農業高校との合同避難訓練 消火設備の確認
2月21日	第4回訓練(引き渡しと情報 伝達訓練)	発災時の引き渡し想定シミュレーション訓練

(2) 施設・設備の整備、保守、保安

月1回の安全点検を実施し、生徒が安全に学校生活を送ることが出来るよう努めた。消防施設の点検も行い、教員の防災意識の向上を図るようにした。

(3) 学校警備

鍵の管理の徹底と施錠の徹底を図った。また、不審者に遭遇した場合の対処方法などを職員間で確認した。

<愛鷹分校>

昨年度同様、沼津城北高校の学校防災計画と連動し、分校の防災計画・防災・防犯マニュアル、消防計画を作成した。

沼津城北高校との合同防災訓練を2回行ったほか、分校独自の避難・防災訓練を数回行

った。また、1年生は地域と連携した防災学習、2年生は静岡県防災センターでの防災学習と沼津高等専門学校での講義を実施した。

(1) 避難・防災訓練

月 日	訓 練 名	主 な 内 容
5月6日	第1回城北合同防火・防災教育 (沼津城北高校との合同訓練)	地震・火災時の対応 誘導・避難等の実践、集合・点呼の確認 消火器の使用方法の実践と確認
8月2日	防災研修(教員)	県東部地域局危機管理課担当者の講話 I D E A
8月30日 ～ 9月5日	全学年 防災学習	災害用伝言ダイヤル(171)訓練
8月30日	第2回避難訓練 (火災発生対応)	地震後に起きる火災発生時の訓練 消火器訓練
9月29日	2年生 防災学習(校外学習)	静岡県防災センター(講話、起震車体験)
10月12・13 ・17・20・22 ・25・26・27 ・31日	1年生 防災学習	グループ別学習(避難所生活や日常の備えについて、掲示づくりなど) 門池地区防災についての講話とフィールドワーク 門池地区自治会連合会より 県東部地域局危機管理課担当者の講話・判断ゲーム
10月18・20 ・25日	2年生 防災学習	沼津高等専門学校教授による講義
11月7日	第3回 合同地震避難訓練 (沼津城北高校との合同訓練)	火災避難訓練 誘導・避難等の実践、 集合(地区別)・点呼の確認、

(2) 施設・設備の整備, 保守, 保安

ア 消防点検は高校と同日実施した。

イ 教職員が、施設・設備の安全管理意識を持つように努めた。副校長の朝夕の校舎内外巡視、養護教諭の定期的な巡視のほか、月1回の安全点検を実施して校舎内外の施設・設備管理を徹底し、生徒が安全に活動できるように努めた。

(3) 学校警備

ア 生徒が登校する前に副校長が校内と校舎の周りを巡回した。その際、窓開けと危険箇所のチェックを行い安全確保を行った。

イ 戸締りは、係の生徒が下校前に3階の生徒利用個所の戸締りチェックを実施した。教員の当番が終業時に校舎内の戸締りと火気点検を実施するとともに、副校長が退庁時に再度一巡した。夜間は、警備会社の機械警備により継続した警備体制を図り、防災・防犯に努めた。

7 学校開放について

地域におけるスポーツ活動等に対し運動場等学校施設を開放している。

【令和4年度】

(令和5年3月31日現在)

事業名	施設名	期 間	日数	利用者	利用者負担金
県立学校 施設開放	体育館	4年4月1日から	14日	延281人	5,330円
	運動場	5年3月31日まで	5日	延176人	電気料(実費)

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
<p>学校教育に関すること</p>	<p>教育基本法（第1条、第2条、第4条、第6条、第9条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条） 学校教育法施行規則 学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条） 学校保健安全法（第5条） 特別支援学校の高等部の学科を定める省令 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則</p>
<p>学校の管理・運営に関すること</p>	<p>学校教育法（第80条、137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱</p>

□□□□□□

学校施設の概要

1 面積及び所有区分

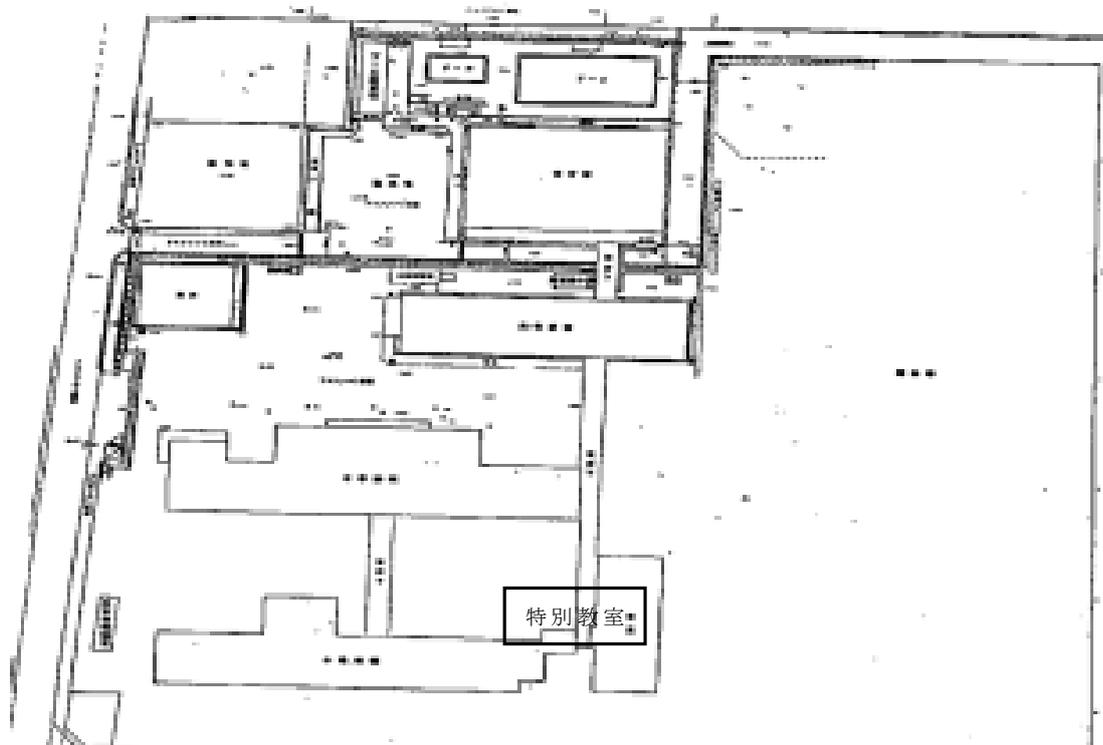
(令和5年2月28日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	18,536.70	18,013.40					
内 訳	校舎敷地	9,935.20	9,935.20				本校
	運動場敷地	8,076.20	8,076.20				本校
	そ の 他 の 敷 地	525.30	2.00	523.30			本校 523.30m ² 伊豆田方分校 2.00m ² (田方農高使用承認)
実 習 地	2,016.44	302.00				1,714.44	
内 訳	田						
	畑	2,016.44	302.00			1,714.44	本校 905.44m ² 伊豆田方分校302.00m ² (田方農高使用承認) 愛鷹分校 809.00m ²
	茶 園						
	果 樹 園						
演 習 林							
校 舎	建 3,095.77 延 6,930.07	3,095.77 6,930.07					本校 2,360.48m ² 5,692.53m ² 伊豆田方分校 361.44m ² 361.44m ² (田方農高使用承認) 愛鷹分校 373.85m ² 876.10m ² (沼津城北高使用承認)
体 育 館	建 573.50 延 573.50	573.50 573.50					本校
武 道 場							
その他の建物	建 917.25 延 890.83	建 917.25 延 890.83					本校 505.86m ² 379.44m ² 伊豆田方分校 162.00m ² 162.00m ² (田方農高使用承認) 愛鷹分校 249.39m ² 249.39m ² (沼津城北高使用承認)
寄 宿 舎							
生 活 館							
プ ー ル	192	192					
職 員 住 宅							

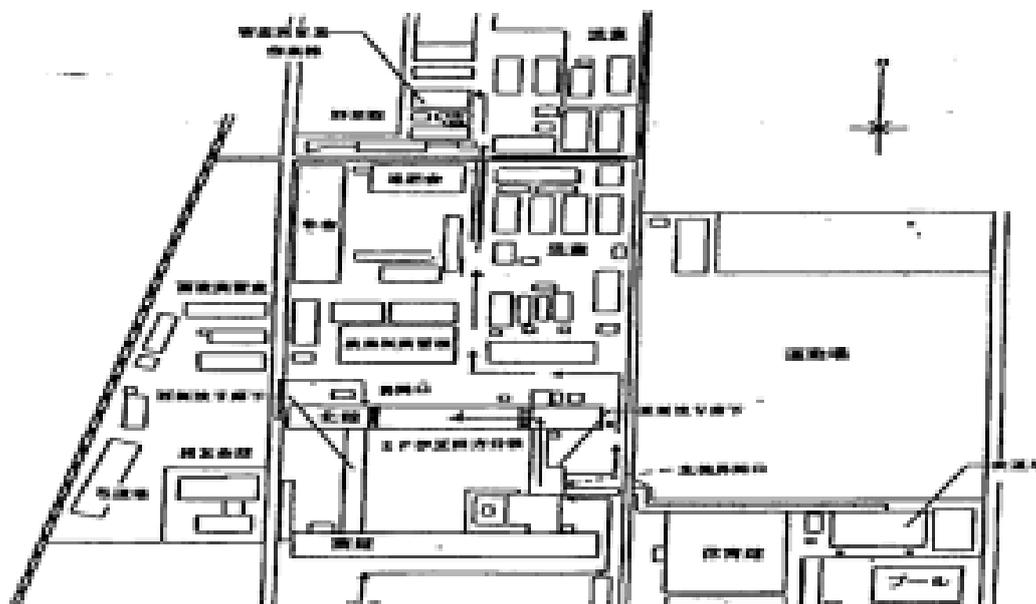
2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図

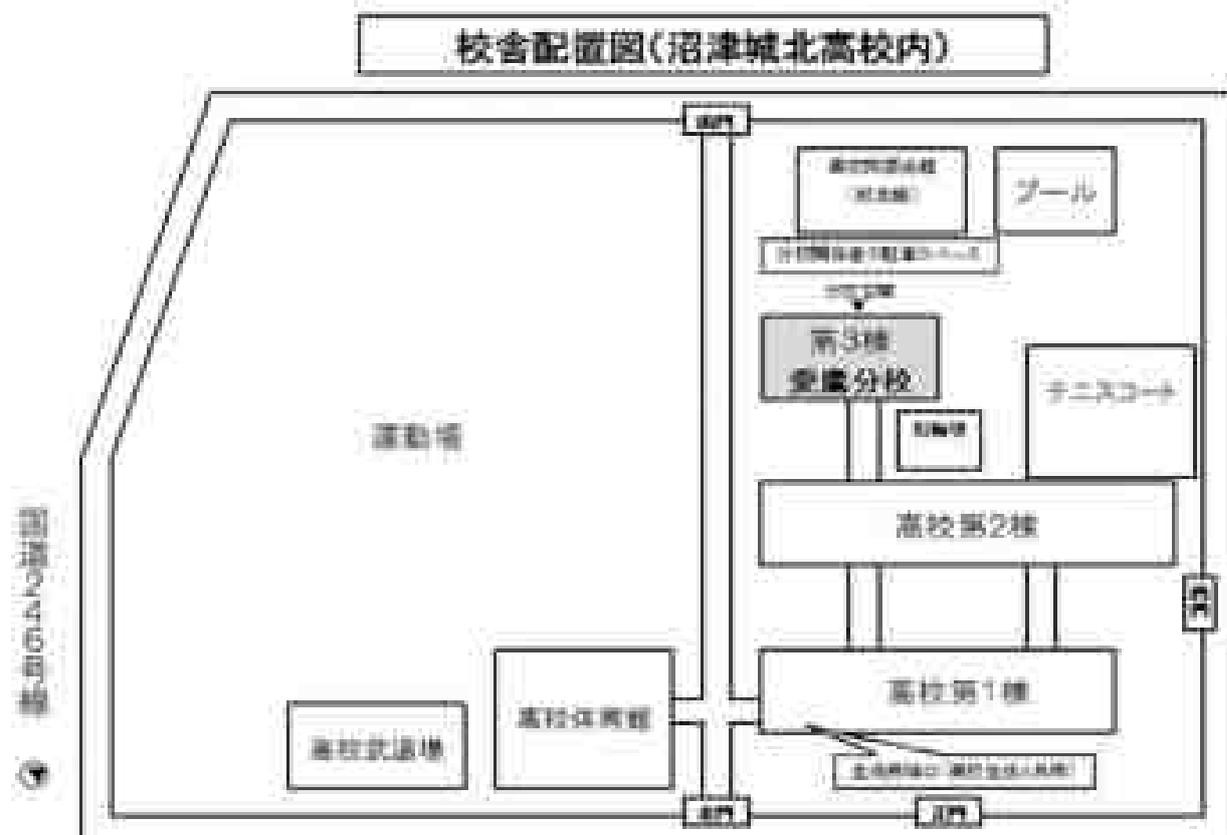
〈本校〉



〈伊豆田方分校〉



〈愛鷹分校〉



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分		学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	本校	18,011.40㎡	5,692.53㎡	8,076.20㎡
	伊豆田方分校	0.00㎡	361.44㎡	0.00㎡
	愛鷹分校	0.00㎡	876.10㎡	0.00㎡
県平均		18,817.67㎡	6,361.36㎡	5,247.28㎡

□□□□

在籍生徒調

(本校)

(令和5年2月28日現在)

学年	学科別 区分	小学部				中学部				高等部				計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者	-	5	7	12	-	13	5	18	57	24	7	31	-	42	19	61
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現在		5	7	12		13	5	18		24	7	31		42	19	61
2年	入学者	-	6	6	12	-	6	8	14	57	19	11	30	-	31	25	56
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	2年時当初		6	6	12		6	8	14		19	11	30		31	25	56
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		0	1	1		0	1	1		0	1	1		0	3	3
	現在		6	5	11		6	7	13		19	10	29		31	22	53
3年	入学者	-	17	4	21	-	13	7	20	57	43	20	63	-	73	31	104
	増加		2	0	2		0	0	0		0	1	1		2	1	3
	減少		6	3	9		5	2	7		10	3	13		21	8	29
	2年時当初		13	1	14		8	5	13		33	18	51		54	24	78
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		1	0	1		1	0	1		1	0	1		3	0	3
	3年時当初		12	1	13		7	5	12		32	18	50		51	24	75
	増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	減少		1	0	1		0	0	0		0	0	0		1	0	1
	現在		11	1	12		7	5	12		32	18	50		50	24	74
4年	入学者	-	24	9	33									-	24	9	33
	増加		2	0	2										2	0	2
	減少		0	0	0										0	0	0
	2年時当初		26	9	35										26	9	35
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		7	7	14										7	7	14
	3年時当初		19	2	21										19	2	21
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		0	0	0										0	0	0
	4年時当初		19	2	21										19	2	21
増加		0	0	0										0	0	0	
減少		0	0	0										0	0	0	
現在		19	2	21										19	2	21	
5年	入学者	-	22	2	24									-	22	2	24
	増加		1	1	2										1	1	2
	減少		0	0	0										0	0	0
	2年時当初		23	3	26										23	3	26
	増加		0	1	1										0	1	1
	減少		1	0	1										1	0	1
	3年時当初		22	4	26										22	4	26
	増加		0	1	1										0	1	1
	減少		9	1	10										9	1	10
	4年時当初		13	4	17										13	4	17
増加		0	0	0										0	0	0	
減少		0	0	0										0	0	0	
5年時当初		13	4	17										13	4	17	
増加		1	0	1										1	0	1	
減少		0	0	0										0	0	0	
現在		14	4	18										14	4	18	
6年	入学者	-	17	8	25									-	17	8	25
	増加		0	0	0										0	0	0
	減少		0	0	0										0	0	0
	2年時当初		17	8	25										17	8	25
	増加		2	1	3										2	1	3
	減少		0	0	0										0	0	0
	3年時当初		19	9	28										19	9	28
	増加		1	0	1										1	0	1
	減少		0	2	2										0	2	2
	4年時当初		20	7	27										20	7	27
	増加		1	1	2										1	1	2
	減少		10	4	14										10	4	14
	5年時当初		11	4	15										11	4	15
	増加		0	0	0										0	0	0
減少		0	0	0										0	0	0	
6年時当初		11	4	15										11	4	15	
増加		0	0	0										0	0	0	
減少		1	0	1										1	0	1	
現在		10	4	14										10	4	14	
合計			65	23	88		26	17	43		75	35	110		166	75	241

(伊豆田方分校)

学年	学科別 区分		高 等 部			
			定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		18	7	8	15
		増 加		0	0	0
		減 少		0	0	0
	現 在			7	8	15
2年	入 学 者			18	9	3
		増 加	0	0	0	
		減 少	0	0	0	
	2 年 時 当 初		9	3	12	
		増 加	0	0	0	
		減 少	0	0	0	
現 在		9	3	12		
3年	入 学 者		18	13	5	18
		増 加	0	0	0	
		減 少	0	0	0	
	2 年 時 当 初		13	5	18	
		増 加	0	0	0	
		減 少	0	1	1	
	3 年 時 当 初		13	4	17	
		増 加	0	0	0	
		減 少	0	1	1	
	現 在		13	3	16	
合 計			54	29	14	43

(愛鷹分校)

学年	学科別 区分		高等部			
			定員	男子	女子	計
1年	入学者		18	12	6	18
		増加		0	0	0
		減少		0	0	0
	現在			12	6	18
2年	入学者		18	11	7	18
		増加		0	0	0
		減少		0	0	0
	2年時当初			11	7	18
		増加		0	0	0
		減少		0	1	1
現在			11	6	17	
3年	入学者		18	13	5	18
		増加		0	0	0
		減少		0	1	1
	2年時当初			13	4	17
		増加		0	0	0
		減少		1	0	1
	3年時当初			12	4	16
		増加		0	0	0
		減少		0	0	0
現在			12	4	16	
合計			54	35	16	51

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

(本校)

区 分		H30 年度	H31 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		48	48	66	39	39
募集者数 (B)		48	48	57	39	39
志願者数	男	26	32	28	19	24
	女	15	20	16	12	7
	計 (C)	41	52	44	31	31
受検者数	男	26	32	28	19	24
	女	15	20	16	11	7
	計 (D)	41	52	44	30	31
合格者数	男	26	32	28	19	24
	女	15	20	16	11	7
	計 (E)	41	52	44	30	31
志願倍率 (C) / (B)		0.85	1.08	0.77	0.79	0.79
受検倍率 (D) / (B)		0.85	1.08	0.77	0.77	0.79
入学者数	男	26	28	32	19	24
	女	15	15	20	11	7
	計 (F)	41	43	52	30	31
充足率 (F) / (A)		0.85	0.90	0.79	0.77	0.79

(伊豆田方分校)

区 分		H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		18	18	18	18	18
募集者数 (B)		18	18	18	18	18
志願者数	男	9	8	13	9	7
	女	5	4	5	3	8
	計 (C)	14	12	18	12	15
受検者数	男	9	8	13	9	7
	女	5	4	5	3	8
	計 (D)	14	12	18	12	15
合格者数	男	9	8	13	9	7
	女	5	4	5	3	8
	計 (E)	14	12	18	12	15
志願倍率 (C) / (B)		0.78	0.67	1.00	0.67	0.83
受検倍率 (D) / (B)		0.78	0.67	1.00	0.67	0.83
入学者数	男	9	8	13	9	7
	女	5	4	5	3	8
	計 (F)	14	12	18	12	15
充足率 (F) / (A)		0.78	0.67	1.00	0.67	0.83

(愛鷹分校)

区 分		H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		18	18	18	18	18
募集者数 (B)		18	18	18	18	18
志願者数	男	18	14	12	16	12
	女	7	3	8	6	6
	計 (C)	25	17	20	22	18
受検者数	男	18	13	12	16	12
	女	7	3	8	6	6
	計 (D)	25	16	20	22	18
合格者数	男	12	13	11	13	12
	女	6	3	7	5	6
	計 (E)	18	16	18	18	18
志願倍率 (C) / (B)		1.39	1.22	1.39	1.11	1.00
受検倍率 (D) / (B)		1.39	1.22	1.33	1.11	1.00
入学者数	男	12	13	13	13	12
	女	6	5	5	5	6
	計 (F)	18	18	18	18	18
充足率 (F) / (A)		1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

□□□□□□

卒業生の動向調

(本 校)

区 分		中 学 部	高 等 部 科 高 本 部 科	合 計
進学者	普通高校	0		0
	特別支援学校高等部	14		14
	高等部専攻科		0	0
	四年制大学		0	0
	短期大学		0	0
	専修・各種学校	0	0	0
	公共職業訓練校	0	2	2
小 計		14	2	16
施設等 入所者	障害者支援施設等	1	29	30
	他の施設	0	0	0
小 計		1	29	30
就職者		0	5	5
在宅療養等		0	0	0
その他		0	0	0
計		15	36	51

(伊豆田方分校)

区 分		高 等 部
		本 科
進学者	普通高校	
	特別支援学校高等部	
	高等部専攻科	0
	四年制大学	0
	短期大学	0
	専修・各種学校	0
	公共職業訓練校	0
小 計		0
施設等 入所者	障害者支援施設等	8
	他の施設	0
小 計		8
就職者		8
在宅療養等		0
その他		0
計		16

(愛鷹分校)

区 分		高 等 部
		本 科
進学者	普通高校	
	特別支援学校高等部	
	高等部専攻科	0
	四年制大学	0
	短期大学	0
	専修・各種学校	0
	公共職業訓練校	0
小 計		0
施設等 入所者	障害者支援施設等	3
	他の施設	0
小 計		3
就職者		15
在宅療養等		0
その他		0
計		18

□□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(本校) (令和5年2月28日現在) (単位：人)

市町名	沼津市	三島市	清水町	長泉町	熱海市	伊豆の国市	その他	合計
生徒数	158	18	31	28	1	2	7	245
構成比%	64%	7%	13%	11%	1%	1%	3%	100%

(伊豆田方分校)

市町名	伊豆市	伊豆の国市	函南町	その他	合計
生徒数	6	24	13	0	43
構成比%	14%	56%	30%	0%	100%

(愛鷹分校)

市町名	御殿場市	裾野市	沼津市	三島市	小山町	長泉町	清水町	県外	合計
生徒数	4	4	21	9	1	6	5	1	51
構成比%	8%	8%	41%	17%	2%	12%	10%	2%	100%

(2) 通学方法

(本校) (令和5年2月28日現在) (単位：人)

区分	スクールバス	徒歩	自家用車	路線バス	JR・私鉄	自転車	あしたか学園	合計
生徒数	112	23	52	17	18	2	21	245
構成比%	46%	9%	21%	7%	7%	1%	9%	100%

(伊豆田方分校)

区分	徒歩	鉄道	鉄道・バス	自転車	電車・自転車	その他	合計
生徒数	12	15	6	4	4	2	43
構成比%	28%	35%	14%	9%	9%	5%	100%

(愛鷹分校)

区分	徒歩	路線バス	鉄道・徒歩	鉄道・バス ・徒歩	自転車・ 鉄道・徒歩	自転車	合計
生徒数	6	16	12	7	1	9	51
構成比%	12%	31%	24%	14%	2%	17%	100%

2 部（クラブ）の加入状況

(本校 高等部) (令和5年2月28日現在) (単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		2	1		3
男子	1 年	2	0	22	24
	2 年	3	1	15	19
	3 年	9	2	21	32
	計 (A)	14	3	58	75
	構成比	19%	4%	77%	100%
女子	1 年	0	0	7	7
	2 年	2	1	8	11
	3 年	10	4	4	18
	計 (B)	12	5	19	36
	構成比	33%	14%	53%	100%
合計	(A + B)	26	8	77	111
	構成比	24%	7%	69%	100%

(伊豆田方分校 高等部)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	1		2
男子	1 年	2	4	1	7
	2 年	5	3	1	9
	3 年	8	2	3	13
	計 (A)	15	9	5	29
	構成比	52%	31%	17%	100%
女子	1 年	5	1	1	7
	2 年	2	1	0	3
	3 年	4	0	0	4
	計 (B)	11	2	1	14
	構成比	79%	14%	7%	100%
合計	(A + B)	26	11	6	43
	構成比	60%	26%	14%	100%

(愛鷹分校 高等部)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	1		2
男子	1年	5	1	6	12
	2年	5	1	5	11
	3年	4	6	2	12
	計(A)	14	8	13	35
	構成比	40%	23%	37%	100%
女子	1年	1	1	4	6
	2年	0	0	6	6
	3年	0	4	0	4
	計(B)	1	5	10	16
	構成比	6%	31%	63%	100%
合計	(A+B)	15	13	23	51
	構成比	29%	26%	45%	100%

3 障害別児童生徒数

(本校)

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	4	4	5	13	12	8	46	10
	重複障害	8	8	8	8	5	7	44	17
	肢体重複								
	合計	12	12	13	21	17	15	90	27
中学部	単一障害	11	9	8				28	6
	重複障害	7	5	4				16	7
	肢体重複								
	合計	18	14	12				44	13
高等部	単一障害	29	28	48				105	13
	重複障害	2	2	2				6	3
	肢体重複								
	合計	31	30	50				111	16

(伊豆田方分校)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
高等部	単一障害	14	12	17				43	6
	重複障害								
	肢体重複								
	合計	14	12	17				43	6

(愛鷹分校)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
高等部	単一障害	18	17	16				51	6
	重複障害								
	肢体重複								
	合計	18	17	16				51	6

4 起因疾患別児童生徒数

(本校)

(令和4年2月28日現在) (単位：人)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
小学部	10	23	48	2	4	0	3	90
中学部	4	13	18	0	1	0	8	44
高等部	7	6	32	2	0	0	64	111
計	21	42	98	4	5	0	75	245

(伊豆田方分校)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
高等部	3	0	8	0	0	0	32	43

(愛鷹分校)

区 分	脳性疾患	染色体異常	広汎性発達障害	心臓疾患	聴覚障害	視覚障害	その他の知的障害	計
高等部	0	0	26	0	0	0	25	51

□□□□□□

職 員 調

本校

(令和5年4月1日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	青木 暁乃		□□□□	□年□月	□□□□
2	副校長	所 康俊		□□□□	□年□月	□□□□
3	教頭	植松 隆洋		□□□□	□年□月	□□□□
4	教諭	秦 香織	高3	□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭	太田 弥生	高3	□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭	竹内 君江	小4	□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭	松本 順子	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭	伊藤 芳枝	高2	□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭	渡辺 明彦	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭	渡邊 英也	中1	□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭	渡井 浩司	高2	□□□□	□年□月	□□□□
12	教諭	井上 智宏	小6	□□□□	□年□月	□□□□
13	教諭	星谷 久実	高2	□□□□	□年□月	□□□□
14	教諭	鹿島 昭恵	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
15	教諭	遠藤 貴子	中2	□□□□	□年□月	□□□□
16	教諭	寺田 准子	小2	□□□□	□年□月	□□□□
17	教諭	佐藤 亜矢子	中2	□□□□	□年□月	□□□□
18	教諭	鈴木 秀宜	小5	□□□□	□年□月	□□□□
19	教諭	高藤 禎博	高3	□□□□	□年□月	□□□□
20	教諭	村松 友余	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
21	教諭	齋下 徹	高1	□□□□	□年□月	□□□□
22	教諭	高橋 美枝	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
23	教諭	小柳 梓	小3	□□□□	□年□月	□□□□
24	教諭	田代 美紀	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
25	教諭	齋藤 一成	中2	□□□□	□年□月	□□□□
26	教諭	浦 れい	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
27	教諭	藏田 篤	小3	□□□□	□年□月	□□□□
28	教諭	渡邊 尚子	中2	□□□□	□年□月	□□□□
29	教諭	羽田 和美	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
30	教諭	西郷 正晃	中学部	□□□□	□年□月	□□□□
31	教諭	伊藤 典子	高1	□□□□	□年□月	□□□□
32	教諭	森 貴史	高2	□□□□	□年□月	□□□□
33	教諭	唐木 栄治	中3	□□□□	□年□月	□□□□
34	教諭	田代 佳子	中1	□□□□	□年□月	□□□□
35	教諭	山本 愛花	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
36	教諭	渡邊 里美	大学院派遣	□□□□	□年□月	□□□□
37	教諭	小林 能美	小学部	□□□□	□年□月	□□□□
38	教諭	長島 信之	小4	□□□□	□年□月	□□□□
39	教諭	竹内 知子	中3	□□□□	□年□月	□□□□
40	教諭	若林 恵理香	小5	□□□□	□年□月	□□□□
41	教諭	深澤 理恵子	小5	□□□□	□年□月	□□□□
42	教諭	山本 未来	中3	□□□□	□年□月	□□□□
43	教諭	梶井 聖子	中1	□□□□	□年□月	□□□□
44	教諭	板橋 幸代	小6	□□□□	□年□月	□□□□
45	教諭	六車 千晴	小1	□□□□	□年□月	□□□□
46	教諭	鈴木 美津保	育休	□□□□	□年□月	□□□□
47	教諭	大嶽 篤子	小6	□□□□	□年□月	□□□□
48	教諭	中山 友美	育休	□□□□	□年□月	□□□□
49	教諭	古藤田 純一	高2	□□□□	□年□月	□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
50	教諭	鈴木 健太郎	高1	□□□□	□年□月	□□□□
51	教諭	渡邊 祐	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
52	教諭	古川 永子	育休	□□□□	□年□月	□□□□
53	教諭	長崎 敦子	育休	□□□□	□年□月	□□□□
54	教諭	久保田 充俊	中2	□□□□	□年□月	□□□□
55	教諭	秋山 恭世	小5	□□□□	□年□月	□□□□
56	教諭	池田 萌	小5	□□□□	□年□月	□□□□
57	教諭	下村 真理	小2	□□□□	□年□月	□□□□
58	教諭	廣瀬 祥子	育休	□□□□	□年□月	□□□□
59	教諭	本田 真奈美	小6	□□□□	□年□月	□□□□
60	教諭	渡辺 実沙	育休	□□□□	□年□月	□□□□
61	教諭	進士 祐太郎	小4	□□□□	□年□月	□□□□
62	教諭	大賀 真衣	小4	□□□□	□年□月	□□□□
63	教諭	柚岡 由紀	小2	□□□□	□年□月	□□□□
64	教諭	千葉 友香	中2	□□□□	□年□月	□□□□
65	教諭	平尾 麻衣子	小3	□□□□	□年□月	□□□□
66	教諭	石田 彩美	産休	□□□□	□年□月	□□□□
67	教諭	岩沢 啓史	高1	□□□□	□年□月	□□□□
68	教諭	福島 香織	育休	□□□□	□年□月	□□□□
69	教諭	諸星 眞靖	高2	□□□□	□年□月	□□□□
70	教諭	柏木 智希	高3	□□□□	□年□月	□□□□
71	教諭	後藤 舞衣	中1	□□□□	□年□月	□□□□
72	教諭	富田 理美	育休	□□□□	□年□月	□□□□
73	教諭	寺島 和代	小6	□□□□	□年□月	□□□□
74	教諭	森口 京祐	小3	□□□□	□年□月	□□□□
75	教諭	鈴木 曜子	育休	□□□□	□年□月	□□□□
76	教諭	三村 あかね	産休	□□□□	□年□月	□□□□
77	教諭	望月 佳菜	中2	□□□□	□年□月	□□□□
78	教諭	横山 友美	小1	□□□□	□年□月	□□□□
79	教諭	村松 麗華	育休	□□□□	□年□月	□□□□
80	教諭	久保田 将利	小2	□□□□	□年□月	□□□□
81	教諭	佐野 文美	小5	□□□□	□年□月	□□□□
82	教諭	岩附 佐知	育休	□□□□	□年□月	□□□□
83	教諭	白砂 美果子	育休	□□□□	□年□月	□□□□
84	教諭	中村 真依	小2	□□□□	□年□月	□□□□
85	教諭	吉村 俊樹	小6	□□□□	□年□月	□□□□
86	教諭	片山 留理子	中1	□□□□	□年□月	□□□□
87	教諭	福井 のぞみ	高3	□□□□	□年□月	□□□□
88	教諭	野月 優	中3	□□□□	□年□月	□□□□
89	教諭	佐野 美咲	小4	□□□□	□年□月	□□□□
90	教諭	鈴木 智詞	高1	□□□□	□年□月	□□□□
91	教諭	勝又 奈月	育休	□□□□	□年□月	□□□□
92	教諭	長邊 さつき	小1	□□□□	□年□月	□□□□
93	教諭	清水 莉子	高2	□□□□	□年□月	□□□□
94	教諭	吉川 将人	中3	□□□□	□年□月	□□□□
95	教諭	小早川 拓巳	小6	□□□□	□年□月	□□□□
96	教諭	山本 絢稀	高3	□□□□	□年□月	□□□□
97	教諭	島田 愛美	小5	□□□□	□年□月	□□□□
98	教諭	浅賀 康平	小5	□□□□	□年□月	□□□□
99	教諭	平出 早紀	小1	□□□□	□年□月	□□□□
100	養護教諭	島田 寿江	保健	□□□□	□年□月	□□□□
101	養護教諭	山本 美羽	保健	□□□□	□年□月	□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
102	栄養教諭	山崎 聡子	育休	□□□□	□年□月	□□□□
103	事務長	高木 伸明		□□□□	□年□月	□□□□
104	主査	大平 光子	会計	□□□□	□年□月	□□□□
105	主査	勝又 啓	会計	□□□□	□年□月	□□□□
106	主任	青木 優騎	会計	□□□□	□年□月	□□□□
平均年数					2年5月	

臨時的任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	本間 知恵	小2	□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭(任)	西島 百子	小3	□□□□	□年□月	□□□□
3	教諭(任)	芹澤 京子	小3	□□□□	□年□月	□□□□
4	教諭(任)	萩原 知子	高1	□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭(任)	廣瀬 悦子	小5	□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭(任)	川口 直子	高2	□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭(任)	勝又 志織	中3	□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭(任)	竹内 理央	高1	□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭(任)	渡邊 このみ	小5	□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭(任)	船越 絵理	小6	□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭(任)	檜山 美乃里	小4	□□□□	□年□月	□□□□
12	教諭(任)	増井 光子	高3	□□□□	□年□月	□□□□
13	教諭(任)	不破 篤子	高2	□□□□	□年□月	□□□□
14	教諭(任)	石井 基江	高1	□□□□	□年□月	□□□□
15	教諭(任)	内藤 美保	高3	□□□□	□年□月	□□□□
16	教諭(任)	後藤 花菜	小1	□□□□	□年□月	□□□□
17	教諭(臨)	真瀬 友美	高2	□□□□	□年□月	□□□□
18	教諭(臨)	高橋 郷江	高1	□□□□	□年□月	□□□□
19	教諭(臨)	鈴木 孝治	小1	□□□□	□年□月	□□□□
20	教諭(臨)	佐藤 軍	高3	□□□□	□年□月	□□□□
21	教諭(臨)	野田 次実	中1	□□□□	□年□月	□□□□
22	栄養士(臨)	齋藤 ひとみ	給食	□□□□	□年□月	□□□□
23	非常勤労務職員	金澤 聡美	事務補助	□□□□	□年□月	□□□□
24	非常勤労務職員	多田 麻美	事務補助	□□□□	□年□月	□□□□
25	非常勤労務職員	鈴木 千鶴子	添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
26	非常勤労務職員	相澤 芳美	添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
27	非常勤労務職員	持田 弘子	添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
28	実習支援指導員	渡邊 広和	実習支援員指導員	□□□□	□年□月	□□□□
29	非常勤労務職員	加藤 國雄	コロナスタッフ	□□□□	□年□月	□□□□
30	非常勤労務職員	日永田 重行	コロナスタッフ兼添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
31	非常勤嘱託員	青木 龍志	実習支援員	□□□□	□年□月	□□□□
32	非常勤労務職員	佐藤 愛子	添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
33	非常勤労務職員	鈴木 義範	添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
34	非常勤講師(看護)	上田 房代	非常勤講師(看護)	□□□□	□年□月	□□□□
35	非常勤嘱託員	加藤 萌花	実習支援員	□□□□	□年□月	□□□□
36	非常勤労務職員	中倉 真希	コロナスタッフ	□□□□	□年□月	□□□□
37	非常勤労務職員	丸山 喜美子	添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
38	スクールカウンセラー	野村 和代	スクールカウンセラー	□□□□	□年□月	□□□□
39	非常勤嘱託員	斉藤 健太	実習支援員	□□□□	□年□月	□□□□
40	非常勤労務職員	渡辺 順子	添乗介助	□□□□	□年□月	□□□□
41	学校医	旭 暢照	内科	□□□□	□年□月	医師
42	学校医	名古 良輔	眼科	□□□□	□年□月	医師
43	学校医	森 聖哲	耳鼻咽喉科	□□□□	□年□月	医師
44	学校医	金元 洋人	整形外科	□□□□	□年□月	医師
45	学校医	河野 英生	歯科	□□□□	□年□月	歯科医師
46	薬剤師	松永 卓也	衛生	□□□□	□年□月	薬剤師
平均年数					9年8月	

□□□□□□

職 員 調

伊豆田方分校

(令和5年4月1日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教頭	長谷川 裕己		□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭	浅井 貴久	高1	□□□□	□年□月	□□□□
3	教諭	佐藤 貴志	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
4	教諭	水野 直代	高1	□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭	岡山 昌義	高3	□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭	佐藤 保寿	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭	杉山 和子	高3	□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭	二見 希志恵	休職	□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭	鈴木 泰洋	高2	□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭	宮城 元気	高2	□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭	佐藤 信彦	高1	□□□□	□年□月	□□□□
12	教諭	山口 歩惟	高2	□□□□	□年□月	□□□□
13	教諭	西村 智世	高1	□□□□	□年□月	□□□□
14	教諭	神尾 俊平	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
15	教諭	藤井 紗耶香	高2	□□□□	□年□月	□□□□
16	教諭	名倉 真依子	高2	□□□□	□年□月	□□□□
17	教諭	齊藤 麻美	高3	□□□□	□年□月	□□□□
18	養護教諭	土屋 愛	保健	□□□□	□年□月	□□□□
19	主任	夏目 佳奈	会計	□□□□	□年□月	□□□□
				平均年数	1年8月	

臨時的任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(臨)	佐野 里香	高1	□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭(臨)	土屋 葵	高3	□□□□	□年□月	□□□□
3	会計年度任用職員	深田 恵美子	事務補助	□□□□	□年□月	□□□□
4	学校医	村田 大一郎	内科	□□□□	□年□月	医師
5	学校医	宇野 明彦	眼科	□□□□	□年□月	医師
6	学校医	佐藤 隆夫	耳鼻咽喉科	□□□□	□年□月	医師
7	学校医	向笠 寛	歯科	□□□□	□年□月	歯科医師
8	薬剤師	萩倉 健介	衛生	□□□□	□年□月	薬剤師
				平均年数	10年2月	

□□□□□□

職 員 調

愛鷹分校

(令和5年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	副校長	稲葉 克枝		□□□□	□年□月	□□□□
2	教諭	遠藤 昌治	高3	□□□□	□年□月	□□□□
3	教諭	及川 出穂	高1	□□□□	□年□月	□□□□
4	教諭	杉澤 哲弥	高2	□□□□	□年□月	□□□□
5	教諭	渡邊 篤	高1	□□□□	□年□月	□□□□
6	教諭	瀬戸 純代	高3	□□□□	□年□月	□□□□
7	教諭	蛭川 智広	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
8	教諭	齋藤 未央	高1	□□□□	□年□月	□□□□
9	教諭	中澤 昇映	高2	□□□□	□年□月	□□□□
10	教諭	伊賀上 史代	高2	□□□□	□年□月	□□□□
11	教諭	野中 悠生	高1	□□□□	□年□月	□□□□
12	教諭	鍛冶 拓海	高3	□□□□	□年□月	□□□□
13	教諭	藤井 優佳	高2	□□□□	□年□月	□□□□
14	教諭	川口 亘	高等部	□□□□	□年□月	□□□□
15	教諭	落合 暁子	高3	□□□□	□年□月	□□□□
16	教諭	吉村 美穂	高1	□□□□	□年□月	□□□□
17	教諭	米山 朋子	高3	□□□□	□年□月	□□□□
18	養護教諭	三森 明美	保健	□□□□	□年□月	□□□□
19	主査	青木 喜子	会計	□□□□	□年□月	□□□□
				平均年数	2年0月	

臨時的任用職員・会計年度任用職員・学校医

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭(臨)	仁科 鈴菜	高2	□□□□	□年□月	□□□□
2	会計年度任用職員	山田 愛子	事務補助	□□□□	□年□月	□□□□
3	学校医	岡田 隆	内科	□□□□	□年□月	医師
4	学校医	中ノ森 恒	眼科	□□□□	□年□月	医師
5	学校医	森 聖哲	耳鼻咽喉科	□□□□	□年□月	医師
6	学校医	菊田 泰生	歯科	□□□□	□年□月	歯科医師
7	薬剤師	松永 卓也	衛生	□□□□	□年□月	薬剤師
				平均年数	8年6月	

□□□□□□

職員 の 年 齢 調

(令和5年4月1日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	17	
30 歳以上 40 歳未満	37	
40 歳以上 50 歳未満	31	
50 歳以上 56 歳未満	10	
56 歳以上 61 歳未満	8	再任用2名
61 歳以上	3	再任用3名
計	106	平均年齢 40.4歳

□□□□□□

職員 の 年 齢 調

(伊豆田方分校 令和5年4月1日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	2	
30 歳以上 40 歳未満	8	
40 歳以上 50 歳未満	7	
50 歳以上 56 歳未満	1	
56 歳以上 61 歳未満	1	
61 歳以上	0	
計	19	平均年齢 40.5歳

□□□□□□

職員 の 年 齢 調

(愛鷹分校 令和5年4月1日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	1	
30 歳以上 40 歳未満	9	
40 歳以上 50 歳未満	5	
50 歳以上 56 歳未満	3	
56 歳以上 61 歳未満	1	
61 歳以上	0	
計	19	平均年齢 40.4歳

健 康 管 理

1 令和4年度受診状況

区 分	内 容		
	本 校	伊豆田方分校	愛鷹分校
受診状況	受診者数94人 職員数 110人	受診者数19人 職員数 20人	受診者数 20人 職員数 21人
受 診 率	100.0%		
県平均受診率	100.0%		

(1) 未受診の理由

産休・育休、特休のため
産育休 本校14、愛鷹1
特休 本校1、田方1
配偶者同行 本校1

2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人 数		
			本 校	伊豆田方分校	愛鷹分校
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人	人	人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	人	人	人
B 2		要経過観察	人	人	人
C 1	勤務をほぼ平常に行っているが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	人	人	人
C 2		要経過観察	人	人	人
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	45人(45)	2人(2)	3人(3)
D 2		要経過観察	30人(30)	4人(4)	6人(6)
D 3		医療不要	11人(11)	13人(13)	10人(10)
区分者計			86人(86)	19人(19)	19人(19)
未区分者数			20人	0人	0人
合 計			106人(106)	19人(19)	19人(19)

(1) 管理区分A～C 2該当者に対する措置状況

転入者のため、分校副校長及び校長に管理区分を伝え、配慮事項等の確認を行った。
また、主治医に宿泊研修引率業務について相談し、配慮が必要な場合は、学校側の体制を組み直し、本人の負担を軽減していく。

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 16 人
イ 新規採用 4 人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他（特休） 人

□□□□□□

保管現金有高調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

現金保管者	区分	金額 円
静岡県立沼津特別支援学校 校長	駐車料金等継続の資金前渡	5,400円
静岡県立沼津特別支援学校 伊豆田方分校 校長	駐車料金等継続の資金前渡	1,200円
静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校 校長	駐車料金等継続の資金前渡	1,100円

□□□□□□

預 金 調

(令和5年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 円	摘 要
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	2530760	沼津特別支援学校 資金前渡者 青木 暁乃	0	給料及び資金前渡 金の受領
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	2530759	自振口 沼津特別支援学校 資金前渡者 青木 暁乃	0	社会保険料、電話 料等の自動振替
スルガ銀行 沼津原町支店	無利息型 普通預金	465604	沼津特別支援学校 就学奨励費 代理受領者 青木 暁乃	0	就学奨励費の代理 受領
残 高 合 計				0	

□□□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和5年2月28日現在)

(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和3年度						令和4年度						摘 要		
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高	
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額		枚数	金 額
郵券	はがき	1	52	0	0	0	0	1	52	0	0	0	0	1	52	連絡用
	往復はがき	1	104	0	0	0	0	1	104	0	0	0	0	1	104	
	120円券	8	960	0	0	0	0	8	960	0	0	0	0	8	960	〃
	10円券	1	10	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	1	10	〃
	5円券	10	50	0	0	0	0	10	50	0	0	0	0	10	50	〃
	2円券	10	20	0	0	0	0	10	20	0	0	0	0	10	20	〃
	往復はがき	5	520	0	0	0	0	5	520	0	0	0	0	5	520	(愛鷹分校)
計			1,716		0		0		1,716		0		0		1,716	
タクシー チケット	原町 タクシー	21		0		1		20		0		5		15		児童生徒 緊急時 輸送用
	伊豆箱 根交通	26		0		1		25		0		2		23		
	沼津市個人 タクシー協 同組合	19		0		1		18		0		0		18		
計		66		0		3		63		0		7		56		

□□□□□□

材 料 品 受 払 調

(令和5年2月28日現在)

区分 品名	令和3年度						令和4年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
粘土	0	0円	7	25,025円	7	25,025円	0	0円	0	0円	0	0円	0	0円	
布	0	0円	971	130,100円	971	130,100円	0	0円	786	85,461円	786	85,461円	0	0円	
木材	0	0円	82	77,456円	82	77,456円	0	0円	85	92,170円	85	92,170円	0	0円	
計	0	0円	1,060	232,581円	1,060	232,581円	0	0円	871	177,631円	871	177,631円	0	0円	

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和3年度)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和2年度	令和3年度	左のうち、2年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	715,122	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		49,385,598	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		15,340,248	0
計					122,024,558	65,440,968	0
(14) 工事 請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	7,084,000	0
計					0	7,084,000	0
(17) 備品 購入費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	2,521,640	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		912,780	0
計					39,989,763	3,434,420	0
(18) 負担金、補 助及び交付 金	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	137,010	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		94,252	
計					399,235	231,262	0
(21) 補償、補填 及び賠償金					/		
計					0	0	0

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、3年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	46,025,080	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	12,713,690	0
計					58,738,770	0
(14) 工事 請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	2,046,000	0
計					2,046,000	0
(17) 備品 購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	2,182,356	0
計					2,182,356	0
(18) 負担金、補 助及び交付 金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	114,778	0
計					114,778	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

委託料に関する調

(令和3年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額 円	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額 円	委託業務の内容	摘要
				当初額 円	変更増減額 円	計 円						
1	給食調理業務 (事務関係)	エコーライフ株式会社	45,740,205	45,100,000	0	45,100,000	一般	2.8.1 ～ 5.7.31	3.5.31	(10,022,188)	学校給食調理業務	2 長期
									3.6.30	1,252,779		
									3.7.30	1,252,779		
									3.8.31	1,252,779		
									3.9.30	1,252,779		
									3.10.29	1,252,779		
									3.11.30	1,252,779		
									3.12.21	1,252,779		
									4.1.31	1,252,779		
									4.2.28	1,252,779		
									4.3.31	1,252,779		
									4.4.28	1,252,779		
小計	15,033,348											
2	スクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	163,674,060	104,443,900	0	104,443,900	一般	3.4.1 ～ 6.3.31	3.5.31	4,517,021	スクールバスの運行	3 長期
									3.6.30	4,517,021		
									3.7.30	4,517,021		
									3.8.31	4,517,023		
									3.9.29	2,699,244		
									3.10.29	2,699,244		
									3.11.30	2,699,244		
									3.12.24	2,699,244		
									4.1.31	2,699,244		
									4.2.28	2,699,244		
									4.3.31	2,699,244		
									4.4.28	2,699,244		
小計	39,662,038											
3	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	5,826,920	5,826,920	0	5,826,920	随契	3.8.26 ～ 3.12.23	3.9.29	1,165,384	スクールバスの運行(増発)	随契 2号 (不適)
									3.10.29	1,165,384		
									3.11.30	1,165,384		
									3.12.24	1,165,384		
									4.1.31	1,165,384		
小計	5,826,920											
4	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	3,553,000	3,553,000	0	3,553,000	随契	4.1.6 ～ 4.3.29	4.2.28	1,184,333	スクールバスの運行(増発)	随契 2号 (不適)
									4.3.31	1,184,333		
									4.4.28	1,184,334		
									小計	3,553,000		
5	自動ドア保守管理業務	中日本オートドア株式会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	3.4.1 ～ 4.3.31	3.10.8	11,000	自動ドアの保守及び点検	随契 1号 (少額)
									4.4.12	11,000		
小計	22,000											
6	防鼠防虫業務	株式会社三島美装	92,400	92,400	0	92,400	随契	3.4.5 ～ 4.3.31	3.10.18	39,600	給食室のゴキブリ、鼠等の駆除防除	随契 1号 (少額)
									4.4.12	52,800		
小計	92,400											
7	グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬業務	伊豆総業株式会社	156,750	156,750	0	156,750	随契	3.7.5 ～ 4.3.31	3.8.20	52,250	グリストラップ清掃汚泥運搬業務	随契 1号 (少額)
									4.1.20	52,250		
									4.4.15	52,250		
									小計	156,750		
8	産業廃棄物(汚泥)処分業務	グリーンサービス株式会社	57,750	57,750	0	57,750	随契	3.7.5 ～ 4.3.31	3.8.20	19,250	グリストラップ汚泥処分業務	随契 1号 (少額)
									4.1.19	19,250		
									4.4.15	19,250		
									小計	57,750		
9	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	株式会社イーシーセンター	運搬料(1回あたり)@11,000 処分料(1kgあたり)@44	運搬料(1回あたり)@11,000 処分料(1kgあたり)@44	0	運搬料(1回あたり)@11,000 処分料(1kgあたり)@44	随契	3.4.15 ～ 4.3.31	3.7.5	68,640	産業廃棄物の収集運搬処分	随契 1号 (少額) 単価契約
									3.8.25	92,840		
									4.4.15	84,920		
									小計	246,400		
10	産業廃棄物(蛍光灯)収集運搬及び処分業務	セキトラシステム株式会社	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	0	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	随契	3.4.20 ～ 3.6.10	3.6.15	42,900	蛍光灯の収集運搬処分	随契 1号 (少額) 単価契約
									小計	42,900		
									4.2.18	32,340		
11	産業廃棄物(蛍光灯)収集運搬及び処分業務	セキトラシステム株式会社	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	0	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	随契	4.1.13 ～ 4.3.18	4.2.18	32,340	蛍光灯の収集運搬処分	随契 1号 (少額) 単価契約
									小計	32,340		
12	体育館定期点検外壁全面打診調査業務	株式会社平柳建築設計事務所	154,000	139,700	0	139,700	随契	3.11.22 ～ 4.1.21	4.2.10	139,700	建築基準法第12条に基づく調査	随契 1号 (少額)
									小計	139,700		
事務関係計		12件						小計	64,865,546			
1	(工事関係) アスベスト及びPCB・鉛他含有調査業務	東海プラント分析センター株式会社	435,600	276,100	△ 30,678	245,422	随契	3.6.18 ～ 3.8.20	3.8.26	245,422	アスベスト・PCB含有調査	随契 1号 (少額)
									小計	245,422		
2	用地測量業務	山口建築設計事務所株式会社山口工務所	715,000	330,000	0	330,000	随契	3.12.25 ～ 4.3.25	4.4.21	330,000	用地測量業務	随契 1号 (少額)
									小計	330,000		
工事関係計		2件						小計	575,422			
合計		14件							65,440,968			

委託料に関する調

(令和4年度)
(令和5年2月28日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	給食調理業務	エコーライフ株式会社	45,740,205	45,100,000	0	45,100,000	一般	2.8.1 ～ 5.7.31		円 (25,055,536)	学校給食調理業務	2 長期
									4.5.31	1,252,779		
									4.6.30	1,252,779		
									4.7.29	1,252,779		
									4.8.31	1,252,779		
									4.9.30	1,252,779		
									4.10.31	1,252,779		
									4.11.30	1,252,779		
									4.12.27	1,252,779		
									5.1.31	1,252,779		
5.2.28	1,252,779											
	小計	12,527,790										
2	スクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	163,674,060	104,443,900	0	104,443,900	一般	3.4.1 ～ 6.3.31		円 (39,662,038)	スクールバスの運行	3 長期
									4.5.31	2,699,244		
									4.6.30	2,699,244		
									4.7.29	2,699,244		
									4.8.31	2,699,244		
									4.9.30	2,699,244		
									4.10.31	2,699,244		
									4.11.30	2,699,244		
									4.12.27	2,699,244		
									5.1.31	2,699,244		
5.2.28	2,699,244											
	小計	26,992,440										
3	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	7,825,620	7,825,620	0	7,825,620	随契	4.4.8 ～ 4.7.22	4.5.31 4.6.30 4.7.29 4.8.31 小計	1,956,405 1,956,405 1,956,405 1,956,405 7,825,620	スクールバスの運行(増発)	随契2号(不適)
4	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	9,108,000	9,108,000	0	9,108,000	随契	4.8.29 ～ 4.12.23	4.10.31 4.11.30 4.12.27 5.1.31 小計	2,277,000 2,277,000 2,277,000 2,277,000 9,108,000	スクールバスの運行(増発)	随契2号(不適)
5	新型コロナウイルス感染症対策に伴うスクールバス輸送業務	富士急シティバス株式会社本社営業所	5,974,650	5,974,650	0	5,974,650	随契	5.1.6 ～ 5.3.28	5.2.28 小計	1,991,550 1,991,550	スクールバスの運行(増発)	随契2号(不適)
6	自動ドア保守管理業務	中日本オート・ドア株式会社	22,000	22,000	0	22,000	随契	4.4.1 ～ 5.3.31	4.9.15 5.2.24 小計	11,000 11,000 22,000	自動ドアの保守及び点検	随契1号(少額)
7	防鼠防虫業務	株式会社三島美装	99,000	99,000	0	99,000	随契	4.4.4 ～ 5.3.31	4.10.14 小計	42,900 42,900	給食室のゴキブリ、鼠等の駆除防除	随契1号(少額)
8	グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬業務	伊豆総業株式会社	156,750	156,750	0	156,750	随契	4.5.23 ～ 5.3.31	4.8.17 5.1.11 小計	52,250 52,250 104,500	グリストラップ清掃汚泥運搬業務	随契1号(少額)
9	産業廃棄物(汚泥)処分業務	クリーンサービス株式会社	57,750	57,750	0	57,750	随契	4.5.23 ～ 5.3.31	4.8.18 5.1.20 小計	19,250 19,250 38,500	グリストラップ汚泥処分業務	随契1号(少額)
10	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	株式会社イーシーセンター	運搬料(1回あたり)@11,000 処分料(1kgあたり)@44	運搬料(1回あたり)@10,450 処分料(1kgあたり)@44	0	運搬料(1回あたり)@10,450 処分料(1kgあたり)@44	随契	4.6.13 ～ 5.3.31	4.8.17 小計	53,130 53,130	産業廃棄物の収集運搬処分	随契1号(少額)単価契約

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
11	産業廃棄物(蛍光灯)収集運搬及び処分業務	セキトラシステム株式会社	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	0	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	随契	4.9.12 ～ 4.11.30	4.10.18 小計	32,340 32,340	蛍光灯の収集運搬処分	随契1号(少額)単価契約
12	産業廃棄物(蛍光灯)収集運搬及び処分業務	セキトラシステム株式会社	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	0	運搬料(1回あたり)@16,500 処分料(1kgあたり)@528	随契	5.2.22 ～ 5.3.31			蛍光灯の収集運搬処分	随契1号(少額)単価契約
	事務関係計	12件							小計	58,738,770		
	合計	12件								58,738,770		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務	セコム株式会社	/	円 8,316,000	円 0	円 8,316,000	/	1.10.1 ～ 6.9.30	/	/	学校施設(本校・愛鷹分校)の機械警備	沼津東
参考2	警備業務	セコム株式会社	/	14,256,000	1,208,900	15,464,900	/	1.10.1 ～ 6.9.30	/	/	学校施設(伊豆田方分校)の機械警備	三島北
参考3	消防用設備等保守点検業務	株式会社藤興産	/	3,300,000	0	3,300,000	/	4.4.1 ～ 5.3.31	/	/	消防用設備の保守点検	沼津工業
参考4	自家用電気工作物保安業務	橋本電気管理事務所	/	715,660	0	715,660	/	4.4.1 ～ 5.3.31	/	/	校内電気工作物の保守点検	沼津聴覚特別支援
参考5	可燃物収集運搬処理業務	有限会社大真商会	/	運搬料(1回あたり)燃やすごみ@26,180 プラスチック製容器包装@26,180 処分料(1kgあたり)@6.82	0	運搬料(1回あたり)燃やすごみ@26,180 プラスチック製容器包装@26,180 処分料(1kgあたり)@6.82	/	4.4.8 ～ 5.3.31	/	/	燃やすゴミ、プラスチックゴミの収集運搬処理	単価契約沼津城北
参考6	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理株式会社	/	200,200	0	200,200	/	4.4.14 ～ 4.11.30	/	/	プール浄化装置保守点検	沼津西
参考7	沼津地区県立学校建築基準法第12条に基づく定期点検業務	有限会社一級建築士事務所アドス設計室	/	1,485,000	0	1,485,000	/	4.8.26 ～ 4.12.16	/	/	建築基準法第12条に基づく点検	沼津西
	計	7件	/				/		/			

□□□□□□

補助金支出調

(令和3年度)

整理 番号	対 象 事業名	交付先	補助の 根 拠	事業の 実 績	総事業費	補助金額 (円)	補助率	交付決定		交 付		事業完了		摘要
								年月日	金額(円)	年月日	金額(円)	年月日	確認年月 日	
1	県立学校行事 キャンセル料 支援事業費補 助金	飯田力駆 ほか60件	県立学校行事キ ャンセル料支援 事業費補助金交 付要綱	学校行事延期 手数料	137,010	137,010	100%	R4. 2. 16	137,010	R4. 3. 4	137,010	R4. 3. 4	R4. 3. 4	
計		60件			137,010	137,010			137,010		137,010			

□□□□□□

負担金支出調

(令和3年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金 額	支出年月日
1	甲種防火管理新規講習 受講料	一般財団法人日 本防火・防災協 会理事長	開催要項 による	甲種防火管理新規 講習受講	円 8,000	3. 4. 27
2	甲種防火管理新規講習 受講料	一般財団法人日 本防火・防災協 会理事長	開催要項 による	甲種防火管理新規 講習受講	8,000	3. 6. 1
3	令和3年度東海地区特 別支援学校知的障害教 育校長会会費	東海地区特別支 援学校知的障害 教育校長会会長	開催要項 による	学校の管理運営に 関する調査及び研 究	5,000	3. 7. 21
4	令和3年度全国特別支 援学校知的障害教育校 長会会費	全国特別支援学 校知的障害教育 校長会会長	会則による	学校の管理運営に 関する調査及び研 究	10,000	3. 9. 29
5	愛鷹分校土地使用貸借 にかかる必要費	加藤 久佳	土地使用 貸借契約 書による	生徒実習用地貸借	63,252	3. 10. 25
	計	5 件			94,252	

□□□□□□

負 担 金 支 出 調

(令和4年度)
(令和5年2月28日現在)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担根拠	事 業 内 容	負担金 額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	開催要項による	特別管理産業廃棄物管理責任者講習受講	円 13,200	4. 5. 23
2	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	開催要項による	特別管理産業廃棄物管理責任者講習受講	13,200	4. 5. 23
3	令和4年度東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	開催要項による	学校の管理運営に関する調査及び研究	5,000	4. 7. 8
4	令和4年度全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会則による	学校の管理運営に関する調査及び研究	11,000	4. 7. 8
5	甲種防火管理新規講習受講料	一般財団法人日本防火・防災協会理事長	開催要項による	甲種防火管理新規講習受講	8,000	4. 8. 9
6	令和4年度東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会参加費	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会会長	開催要項による	学校の管理運営に関する調査及び研究	2,000	4. 10. 4
7	愛鷹分校土地使用貸借にかかる必要費	加藤 久佳	土地使用貸借契約書による	生徒実習用地貸借	62,378	4. 10. 7
	計	7 件	/	/	114,778	/

□□□□□□

建 築 工 事 調

(令和3年度)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初 設計金額 円	契約金額			契約締結 方法	受注者	着手完成 (予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘要
					当初額 円	変更増減額 円	計 円							
1	教育管理費	伊豆田方分校トイレ洋式 化及び換気扇設置工事	田方郡 函南町 地内他	5,137,000	5,005,000	110,000	5,115,000	指名	株式会社井戸松	R3.7.31 R3.10.27	5,115,000	伊豆田方分校 及び愛鷹分校 のトイレ洋式 化及び換気扇 設置	-	令達年月日3.6.29 最終支払日3.11.18 入札第2号
2	教育管理費	中学部棟救助袋更新工事	沼津市 大塚地内	1,045,000	1,045,000	0	1,045,000	随契	株式会社藤興産	R3.11.23 R4.3.18	1,045,000	中学部棟の 救助袋を更新	-	令達年月日3.11.1 最終支払日4.4.8 随契1号(少額)
3	教育管理費	小プール塗装工事	沼津市 大塚地内	1,320,000	924,000	0	924,000	随契	株式会社清谷商店	R3.12.24 R4.3.18	924,000	小プールの 塗装	-	令達年月日3.12.3 最終支払日4.4.8 随契1号(少額)
		合計	3件	7,502,000	6,974,000	110,000	7,084,000				7,084,000			
参考 1	教育管理費	トイレ洋式化工事	沼津市 大塚地内	11,561,000	10,780,000	308,000	11,088,000	指名	エイショウ株式会社	R3.3.16 R3.9.13	-	中学部・高等 部棟及びプー ル棟のトイレ 洋式化	-	本庁経理 設備課 教育委員会から 再配当
参考 2	教育管理費	小学部棟トイレ改修工事	沼津市 大塚地内	53,669,000	46,200,000	539,000	46,739,000	一般	富士峰建設株式会社	R3.8.17 R3.12.10	-	小学部棟 トイレ改修	-	本庁経理 沼津土木事務所 教育委員会から 再配当

建 築 工 事 調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初 設計金額 円	契約金額			契約締結 方法	受注者	着手完成 (予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘要
					当初額 円	変更増減額 円	計 円							
1	教育管理費	校長室他空調更新工事	沼津市 大塚地内	2,398,000	2,046,000	0	2,046,000	随契	エイショウ株式会社	R4.6.2 R4.6.30	2,046,000	事務室・校長室 空調機の既設撤 去・2台新設	予	令達年月日R4.5.10 最終支払日R4.8.2 随契1号(少額)
2	教育管理費	厨房空調更新工事	沼津市 大塚地内	4,158,000	4,070,000	0	4,070,000	指名	菱友冷熱株式会社	R4.12.28 R5.3.31		厨房空調機の既 設撤去・1台新 設	予	令達年月日R4.9.9 R4.12.2 入札第3号
		合計	2件		6,116,000	0	6,116,000				2,046,000			
参考	教育管理費	小学部棟外壁修繕他工事	沼津市 大塚地内	78,639,000	69,300,000	5,742,000	75,042,000	一般	株式会社佐藤建設	R4.7.5 R5.2.6	75,042,000	小学部棟・中学 部棟・渡廊下棟 棟の屋上防水・ 外壁修繕、渡廊 下塗裝修繕	-	本庁経理 最終支払日 R5.3.15 建築工事課

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和3年度)

区分	令和3年3月31日 現 在		増		減		令和4年3月31日 現 在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,590,605		千円		千円 29,378		千円 1,561,227	
土 地	18,083.69㎡	1,299,442			72.29 ㎡	5,195	18,011.40㎡	1,294,247	
立木竹									
樹 木	20本	130					20本	130	
建 物	$\frac{3,439.84\text{m}^2}{6,745.47\text{m}^2}$	161,500				22,421	$\frac{3,439.84\text{m}^2}{6,745.47\text{m}^2}$	139,079	
工作物	75個	82,236	14	17,919		8,986	89個	91,169	
普通財産		0						0	
土 地	0㎡	0					0㎡	0	
建 物	0㎡	0					0㎡	0	
工作物	0個	0					0個	0	
公有財産 に準ずる もの		504						504	
電 話 加入権	9件	504					9件	504	

令和4年度2月末現在 異動なし

□□□□□□

借地借家等調

(令和5年2月28日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	実習地	沼津市岡宮字七ツ枝440番2	田	畑	m ² 809.00		無償	4.4.1 ~5.3.31	個人	愛鷹分校 農耕作業学習
2	土地	公衆用 道路	沼津市大塚字雁作837番3、 835番1地先	公衆用 道路	通路	523.30		無償	4.4.1 ~5.3.31	沼津市長	本校 学校敷地
3	土地	実習地	沼津市大塚 831 - 1	田	畑	905.44		無償	4.4.1 ~5.3.31	個人	本校 農耕作業学習
4	土地	学校敷地	田方郡函南町塚 本字七反田961			2.00		無償	3.4.1 ~6.3.31	静岡県立 田方農業 高等学校	伊豆田 方分校 指標 敷地
5	土地	畑	田方郡函南町塚			302.00		無償	3.4.1 ~6.3.31		伊豆田 方分校 実習地
6	工作物	温室装置	本字上正方745			1個		無償	3.4.1 ~6.3.31		伊豆田 方分校 校舎
7	建物	事務所建	田方郡函南町塚 本字七反田961			361.44		無償	3.4.1 ~6.3.31		伊豆田 方分校 実習棟
8	建物	雑屋建	田方郡函南町 塚本字元作り 954-3			162.00		無償	3.4.1 ~6.3.31		
9	建物	事務所建	沼津市岡一色			876.10		無償	3.4.1 ~6.3.31	静岡県立 沼津城北 高等学校	愛鷹分校 校舎
10	建物	雑屋建	875			249.39		無償		愛鷹分校 自転車 置場	
	計					土地 2,541.74 建物 1,648.93 工作物 1個		0			

□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額											
				29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 2台の使用料 (契約日) 30.4.1	1,495,254		251,524	286,528	326,220	323,657	307,325					
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 1台の使用料 (契約日) 31.4.1	386,781			76,793	77,497	77,497	77,497	77,497				
	電子複写機賃貸借・使用契約	モノクロ機 1台の使用料 (契約日) 2.4.1	392,370				78,474	78,474	78,474	78,474	78,474			
	印刷機賃貸借・使用契約	カラー機 1台の使用料 (契約日) 29.8.1	3,240,000	432,000	648,000	648,000	648,000	648,000	216,000					
	印刷機賃貸借・使用契約	カラー機 1台の使用料 (契約日) 4.7.1	3,300,000						440,000	660,000	660,000	660,000	660,000	220,000
	給食調理(配膳)業務	給食の調理及び 配膳業務 (契約日) 2.8.1	45,100,000				10,022,188	15,033,348	15,033,348	5,011,116				
	スクールバス輸送業務	通学の送迎及び 校外活動の送迎 (契約日) 3.4.1	104,443,900					39,662,038	32,390,928	32,390,934				

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又 は使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は 使用許可 を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務 所建	沼津市 大塚 823-1	R C 3階		1.00 m ²		免除	3.10.31 ～ 7.3.31	沼津市長	同報無線 個別受信 機設置
合計								0			

□□□□□□

主 要 備 品 調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額(円)	摘要
	大・中	小					
1	01-13	調理器具	食品食器洗浄器 外形820×965×1580	毎日(年間189日) 給食食器洗浄	H31. 3	3,024,000	18-005004
2	06-06	加熱装置	コンベクションスチームオープン 1100×800×1500	毎日(年間189日) 給食調理用	H23. 3	2,992,500	10-007637
3	01-13	食品食器洗浄機	食品食器洗浄機 SD340GSH	毎日(年間189日) 給食食器洗浄	R 2. 3	2,629,000	19-009380
4	02-01	パーソナルコン ピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備 機器一式	毎日(年間200日) 情報の授業用	R 2. 1	2,071,047	19-003868
5	02-01	パーソナルコン ピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ(一式) NECVersaPro	毎日(年間40日) 情報の授業用 一部処分検討中	H23. 9	1,806,000	11-010735
6	02-01	パーソナルコン ピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ (一式) LIFEBOOK A573/G	毎日(年間200日) 情報の授業用	H26. 2	1,801,800	13-006138
7	10-08	その他の芸術用器具	引出式電気窯 2000ODLPL型	月8日(年間88日) 作業学習用	H21. 3	1,785,000	08-009821
8	06-09	木工用機械	パネルソー SZ3-6000	月8日(年間88日) 作業学習用	H24. 3	1,690,500	11-020304
9	01-13	その他の厨房機器	食器消毒保管庫 MCW-40e	毎日(年間189日) 食器消毒・保管	R 3. 12	1,573,000	21-007091
10	10-08	その他の芸術用器具	電気式陶芸窯 酸化型 横扉開閉引出	月2日(年間16日) 作業学習用	H30. 3	1,479,600	17-004916
11	01-04	移動書庫	移動書庫 オカムラ6連×4連	毎日(年間240日) 教務用書類保管	H 9. 9	1,300,000	97-006093
12	02-01	パーソナルコン ピュータ周辺機器	パーソナルコンピュータ 周辺機器	毎日(年間200日) 情報の授業用	R 1. 9	1,261,516	19-002515
13	02-01	パーソナルコン ピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ (一式)	毎日(年間200日) 授業用	H29. 1	1,058,400	16-004289
14	01-99	その他の庁用器具	校旗 西陣日本製 K24本金	年間30日 学校行事用	H25. 3	963,165	12-004337
15	01-04	移動書庫	手動式スライド書架	毎日(年間240日) 教務書類保管	H26. 3	864,570	13-006578
16	10-08	その他の芸術用器具	真空土練機 ステンレス羽根	月12日(年間132日) 作業学習用	H25. 10	804,300	13-001920
17	12-01	雑機器	組立倉庫	毎日(年間365日) 防災用	H 6. 3	782,800	93-018935
18	01-07	製本機	製本機	月4日(年間44日) 作業学習用	H25. 3	735,000	12-005662
19	10-08	その他の芸術用器具	真空式循環粘土再生機 MHS-20SW	月8日(年間88日) 作業学習用	H21. 3	724,500	08-009825
20	03-03	プロジェクター	プロジェクター他 MC-BW302J等	毎日(年間200日) 授業用	R 3. 3	712,191	20-011895

特別支援学校における生産物売払調

令和4年度

(令和5年2月28日現在)

	主な生産品目
令和4年度	<p><手芸品・工作物></p> <p>(本校)</p> <p>ストラップ (100円、200円、300円) ネックストラップ (ガラスブローチ無) 指輪セット ガラスブローチ メガネチェーン ポチ袋 クラフトカード (シンプル、ゴージャス) 祝儀袋 花型コースター ミニバスケット ハニーバスケット マスクケース メモ帳セット 商品短冊 ベンチ (オイル仕上げ) ウッドボックス ティッシュボックス ミニベンチ (オイル仕上げ) カッティングボードA4バッグ (絞り染め付き) プチトートバッグ (絞り染め付き) ビッグバッグ (絞り染め付き) くるみボタンヘアゴム 巾着袋</p> <p>(愛鷹分校)</p> <p>巾着袋 (大、中、小) 布製小物 (大、中、小) ヘアゴム (布) 布製ケース (中) 布製バッグ (大、中) トートバッグ チラシ・フライヤー (A4片面モノクロ、A4片面カラー) 輪転機印刷 (A4片面)</p> <p>(伊豆田方分校)</p> <p>カッティングボード 木製マグネット 木製キーホルダー ひのきチップ</p>
	<p><農作物・園芸品></p> <p>(本校)</p> <p>ブロッコリー プチヴェール 落花生 なす ミニトマト ピーマン 玉ねぎ</p> <p>(愛鷹分校)</p> <p>ほうれん草 カリフラワー 小松菜 ブロッコリー 大根 白菜 にんじん 水菜 オクラ なす ピーマン かぶ キャベツ ミニトマト インゲン トウモロコシ ズッキーニ スナップエンドウ じゃがいも レタス たまねぎ</p> <p>(伊豆田方分校)</p> <p>サトイモ 茎ブロッコリー チンゲン菜 かぶ ピーマン ナス</p>
	<p><陶芸品></p> <p>(本校)</p> <p>皿 (大、中、小) 深皿 さんま皿 豆皿 そばちょこ 湯のみ マグ カップ コーヒーカップ B級品 フリーカップ (大、小)</p>

	(伊豆田方分校) 小皿 (12 cm、15 cm) 小鉢 大皿		
	① 売払金額	827,900 円	②前年度との差額
			△98,400 円
令和3年度	<手芸品・工作物>		
	(本校) ミニバスケット 花ゴム 花型コースター メッセージカード 封筒 クラフトカード クラフトカード (シンプル・ゴージャス) 商品短冊 祝儀袋 ポチ袋 マスクケース ビーズストラップ ネックストラップ (ガラスブローチ無) ガラスペンダント ガラスブローチ コースターセット ビッグバッグ プチトートバッグ A4バッグ カッティングボード ティッシュボックス ウッドボックス ミニベンチ (オイル仕上げ) ベンチ (オイル仕上げ) 指輪セット ティッシュボックス くるみボタンヘアゴム ハニーバスケット		
	(伊豆田方分校) ひのきチップ カッティングボード		
	(愛鷹分校) チラシ・フライヤー (カラー モノクロ) 名刺 輪転機印刷物 巾着袋 (小・中・大) 布製ケース (中) 布製小物 (小・中・大) 布製バッグ (中) マスク ヘアゴム おくすり手帳 防災頭巾カバー メモ帳セット		
	<農作物・園芸品>		
	(本校) ピーマン ミニトマト たまねぎ 大根 さつまいも ブロッコリー プチヴェール		
	(伊豆田方分校) なす 茎カリフラワー きゅうり さといも ピーマン チンゲン菜 茎ブロッコリー 大根 カブ		
	(愛鷹分校) カブ ズッキーニ ホウレンソウ ピーマン 水菜 スナッフエンドウ オクラ ニンニク キャベツ ごぼう なす ブロッコリー ミニトマト 白菜 大根 にんじん カリフラワー 小松菜 チンゲン菜 きゅうり じゃがいも たまねぎ、ロマネスコ		
	<陶芸品>		
	(本校) フリーカップ小・大 マグカップ コーヒーカップ そばちょこ 皿 (小・中・大) 深皿 湯のみ さんま皿		

	(伊豆田方分校)		
	小皿 (12cm 15cm) 皿 (中・大) 美人花瓶 筒花瓶 爪楊枝立て		
	① 売払金額	926,300 円	② 前年度との差額
			△91,600 円
令和 2 年 度	<手芸品・工作物>		
	(本校)		
	バスケット ミニバスケット 花ゴム ミニダストボックス		
	クラフトカード クラフトカード (ゴージャス) 商品短冊 祝儀袋		
	ポチ袋 ビーズストラップ ネックストラップ (ガラスブローチ有)		
	ネックストラップ (ガラスブローチ無) ガラスブローチ コースター		
	ビッグバッグ プチトートバッグ コーヒーアロマ脱臭剤 マスク		
	A4バッグ ティッシュボックス ウッドボックス ミニベンチ (オイル仕上げ)		
	ベンチ (オイル仕上げ)		
	(伊豆田方分校)		
	ひのきチップ カッティングボード		
(愛鷹分校)			
チラシ・フライヤー 名刺 名刺 (両面) 輪転機印刷物			
巾着袋 (小・中・大) 布製ケース (小・中・大) 布小物 (小・中)			
布製バッグ (小・中) マスク トートバッグ (中) ヘアゴム			
メモ帳セット			
<農作物・園芸品>			
(本校)			
さつまいも じゃがいも ピーマン ミニトマト たまねぎ 白菜			
プチヴェール ブロッコリー			
(伊豆田方分校)			
さつまいも さといも ホウレンソウ ブロッコリー ハツカダイコン			
ミニキャロット 大根 カリフラワー			
(愛鷹分校)			
カブ ズッキーニ ホウレンソウ ピーマン さつまいも			
スナップエンドウ オクラ ニンニク キャベツ なす ブロッコリー			
ミニトマト 白菜 大根 いんげん豆 カリフラワー 小松菜			
ねぎ 茎ブロッコリー じゃがいも たまねぎ			
<陶芸品>			
(本校)			
フリーカップ (小・大) マグカップ コーヒーカップ そばちょこ			
皿 (小・中・大) 深皿 箸置きセット 湯のみ			
(伊豆田方分校)			

皿 (12cm 15cm 中) 花皿 富士山花瓶 猫皿 六角皿 美人花瓶 クリップスタンド 筒花瓶 爪楊枝立て			
① 売払金額	1,017,900 円	② 前年度との差額	15,900 円